精神科領域専門医研修プログラム

■ 専門研修プログラム名：　広島大学病院連携施設　精神科専門医研修プログラム

■ プログラム担当者氏名：　角　芙美

住　　所：〒734-8551　広島県広島市南区霞１丁目２番３号

電話番号：　082- 257 - 5208

Ｆ　Ａ　Ｘ：　082- 257 - 5209

Ｅ-ｍａｉｌ：　f-sumi1025@hiroshima-u.ac.jp

■ 専攻医の募集人数：（　９　）人

■ 専攻医の募集時期：　2026 年　９月　１日～　締め切り

■ 応募方法：

履歴書を下記宛先に送付の上、面接申し込みを行う。

宛先：〒734-8551 広島県広島市南区霞1丁目2番3号

広島大学精神神経医科学講座

TEL：082-257-5208

FAX：082-257-5209

担当者：増田　慶一（医局長）

◆提出期限◆

締切日必着

■ 採用判定方法：

プログラム統括責任者・医局長が履歴書記載内容と面接結果に基づき厳正な審査を行い、採用の適否を判断する。

Ⅰ　専門研修の理念と使命

１．　専門研修プログラムの理念（全プログラム共通項目）

精神科領域専門医制度は、精神医学および精神科医療の進歩に応じて、精神科医の態度・技能・知識を高め、すぐれた精神科専門医を育成し、生涯にわたる相互研鑽を図ることにより精神科医療、精神保健の向上と社会福祉に貢献し、もって国民の信頼にこたえることを理念とする。

２．　使命（全プログラム共通項目）

患者の人権を尊重し、精神・身体・社会・倫理の各面を総合的に考慮して診断・治療する態度を涵養し、近接領域の診療科や医療スタッフと協力して、国民に良質で安全で安心できる精神医療を提供することを使命とする。

３．　専門研修プログラムの特徴

広島大学精神神経医科学教室は開設以来７５年を超える歴史と伝統をもち、臨床から研究に至る幅広い領域において精神医療･精神医学の発展に大きな功績を残し、これまでに４００名以上の精神科医を輩出してきた。教室の特徴として、大学病院を核として県内の総合病院精神科、精神科専門病院などの医療機関のみならず、精神保健福祉センター、こども家庭センターなどの行政機関までも有機的につながるネットワーク（広島精神医療ネットワーク）を構築しており、臨床面、教育面、研究面において強い互恵関係にある。そのため、初期研修においては効率的に幅広い臨床経験を積むことができる。

具体的には、１年目は広島大学病院で研修を行い、精神医学・医療の基本をじっくりと習得する。総合病院精神科においては、小児から老年期精神障害、器質性から心因性といった多様な症例を数多く診療する。精神科専門病院においては、救急・地域医療、依存症も含めた幅広い診療を経験する。また、各専攻医の関心と病院の特徴が合致する研修も選択可能である。これらの経験を通じて、精神科ジェネラリストとしての実力を向上させるだけでなく、確実に専門医獲得が可能となり、更に高度な専門性の獲得に繋がる研修となる。

基幹病院となる広島大学の精神科は、２０床の開放病棟と比較的に少ないベッド数ではあるが、隔離・観察室も確保しており、難治例、身体合併症例などほとんどのケースに対応し、より緻密な精神症状の診断と治療の基本の習得に適している。専攻医は入院患者の主治医となり、指導医の指導を受けながら、看護、心理、リハビリテーションの各領域とチームを組み、各種精神疾患に対し生物学的検査・心理検査を行い、薬物療法、精神療法、修正型電気療法などの治療を柔軟に組み合わせ最善の治療を行っていく。外来の患者もほとんどの精神疾患を網羅しており、研修の過程でほとんどの精神疾患、治療についての基礎的な知識を身につけることが可能である。

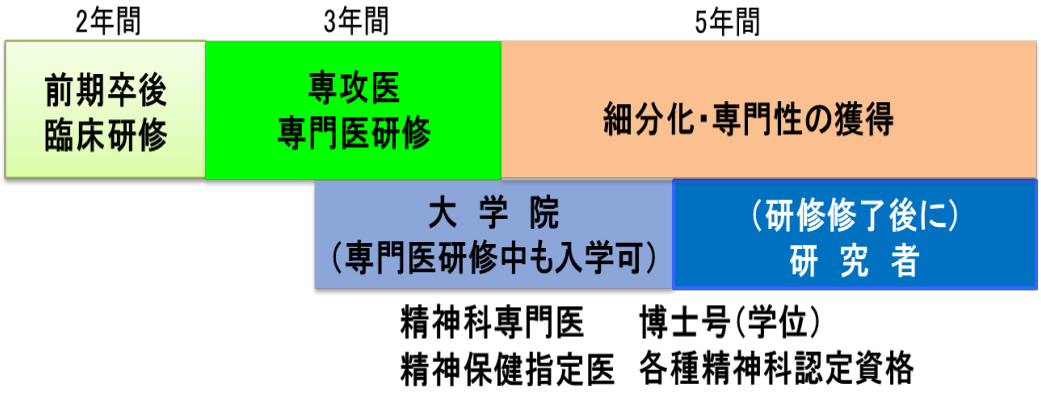
県立広島病院、国立病院機構呉医療センター、広島市立広島市民病院、広島市立

北部医療センター安佐市民病院の各総合病院の精神科は、一般の総合病院精神科において症例数の多い器質性・症状性精神障害、リエゾン・コンサルテーション、気分障害などが経験できると共に、各施設は、摂食障害、重症気分障害、緩和ケアなど特有の専門性を有している。瀬野川病院、三原病院、こころホスピタル草津の各精神科専門病院は全て精神科救急システムに参画しており、統合失調症の症例数も豊富である。また、選択枠である研修施設はそれぞれ、地域医療、社会復帰支援、老年期精神医療、児童・思春期精神医療、薬物依存・アルコール症医療、気分障害リワークなどの専門性を有している。

従来、精神疾患は、ヒトの脳機能があまりにも複雑であるために解明することが困難であり、その病態は不明であると言われてきたが、最近の脳科学研究の進歩は、この難関克服を可能にしつつある。広島大学精神医科学教室では、高い臨床能力を有し、かつ未だ解決されていない精神医学・医療上の課題にチャレンジするための臨床・基礎研究を推進できる人材養成を目指している。乳幼児から児童・思春期、壮年期、老年期に至る人間のライフステージすべてにおいて、脳画像研究、分子生物学、薬理学、心理学、社会学などの最先端の知見を駆使して、複雑を極める精神疾患の病因・病態解明に取り組み、より多くの精神疾患で苦しむ方々を救う事が広島大学精神医科学教室のミッションと考えている。とりわけ、ニューロサイエンス（脳画像解析、分子生物学、精神薬理学など）を応用した臨床研究、サイコオンコロジーなどの分野の成果は国際的にも高く評価されており、専攻医は関心領域の研究に関わる事も可能である。

（ホームページアドレス：https://www.seisin.hiroshima-u.ac.jp）

広島大学を基幹施設とした研修イメージ

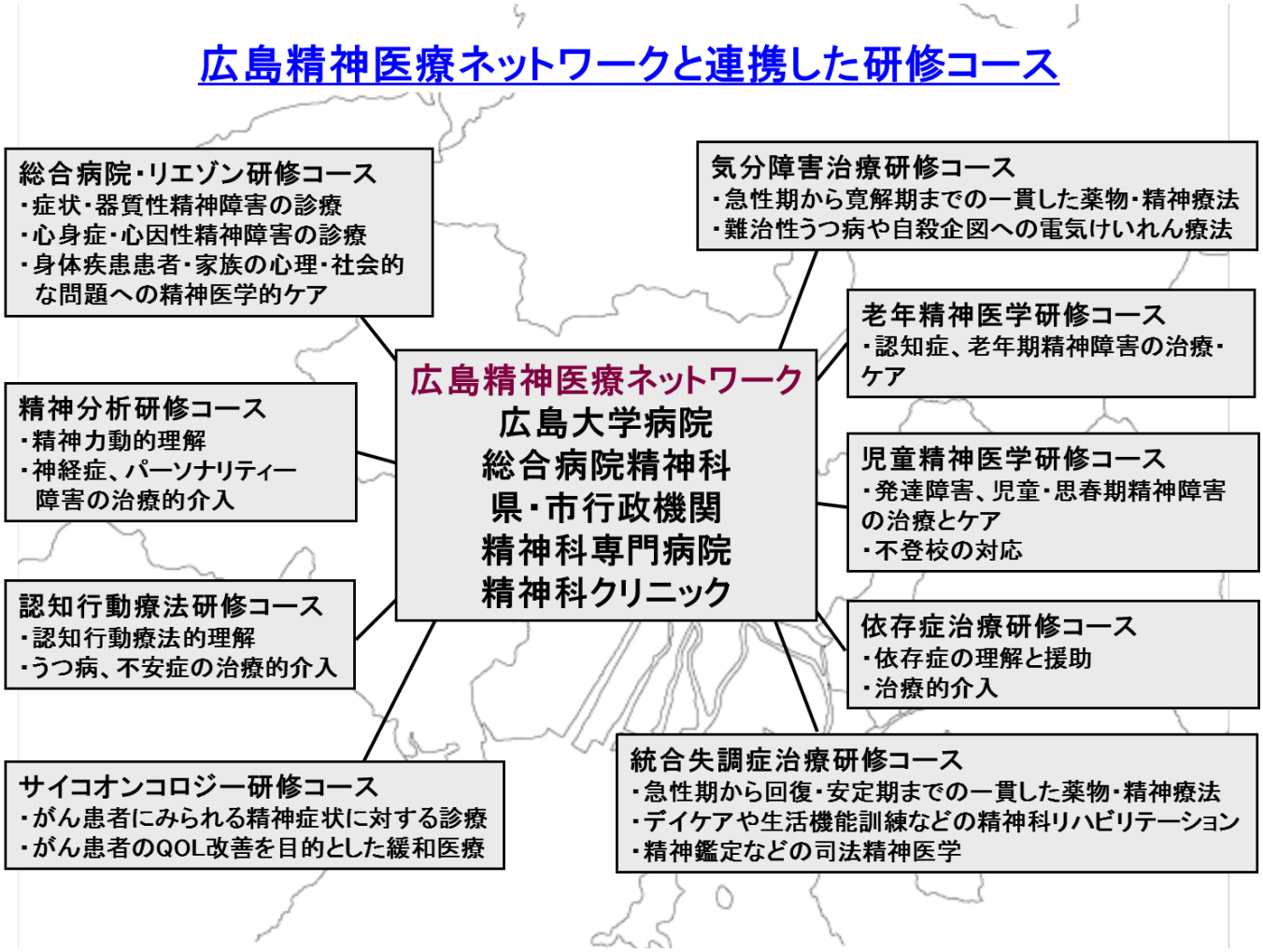


研修期間中の研修・研究会

- 専攻医研修会（クルズス）（水曜日、不定期）（3年間）
- 院内症例検討会（1年間）
- 多施設合同症例検討会　（3年間）
- 広島精神神経学会（年2回）（3年間）
- 中国地区GHP研究会（総合病院・リエゾン）（年2回）（3年間）

- 広島リエゾン・緩和ケアカンファレンス（隔月）
- 広島児童・思春期勉強会（月１回）
- 広島精療精神医学研究会（木曜・土曜、不定期）
- 広島認知行動療法勉強会（月１回）
- 生物学的精神医学研究会（脳画像・生理・介入）（月2回）
- 生物学的精神医学研究会（薬理・生化・分子）（水曜日、不定期）

広島精神医療ネットワークと連携した研修コース



II. 専門研修施設群と研修プログラム

１．　プログラム全体の指導医数・症例数

■　プログラム全体の指導医数：73 人

■　一年間のプログラム施設全体の症例数

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	4892	2280
F1	1648	1058
F2	7814	2855
F3	8707	1324
F4　F50	5790	527
F4 F7 F8 F9 F50	5336	560
F6	450	90
その他	1661	154

２．　連携施設名と各施設の特徴

A　研修基幹施設

・施設名：広島大学病院

・施設形態：大学病院

・院長名：安達　伸生

・プログラム統括責任者氏名：岡田　剛

・指導責任者氏名：岡田　剛

・指導医人数：（　7　）人

・精神科病床数：（　20　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）

F0	58	7
F1	18	5
F2	345	15
F3	534	31
F4　F50	820	91
F4 F7 F8 F9 F50	234	30
F6	74	3
その他	19	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は７４６床を有する県内唯一の大学病院である。精神科病床は２０床の開放病棟と比較的に少ないが、隔離・観察室も確保しており、難治例、身体合併症例などほとんどのケースに対応し、より緻密な精神症状の診断と治療の基本の習得に適している。また、看護、心理、リハビリテーションの各領域と密接なチーム医療を行える人的資源が豊富な点も特徴である。外来患者もほとんどの精神疾患を網羅しており、研修の過程でほとんどの精神疾患、治療についての基礎的な知識を身につけることが可能である。

B　研修連携施設

① 施設名：県立広島病院

・施設形態：公的総合病院

・院長名：板本　敏行

・指導責任者氏名：高畑 紳一

・指導医人数：（　2　）人

・精神科病床数：（　40　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	110	19
F1	27	11

F2	457	57
F3	854	120
F4　F50	652	24
F4 F7 F8 F9 F50	28	41
F6	15	16
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は７００床を有する地域基幹病院の総合病院であり、精神病床４０床を有している。入院では、気分障害や身体合併症を併存する精神疾患を中心に多彩な疾患、症例を経験できる。精神疾患の中では摂食障害患者の入院例を年間４０例以上診ており、その身体管理、行動療法など他の施設では経験できない症例も経験できる施設である。修正型電気けいれん療法は年間２００件以上行っている。コンサルテーション・リエゾンは院内で広く展開しており、身体科との連携は良好である。当院は救命救急センターを有しており、自殺企図症例も多く経験できる。更に他の施設にはない緩和ケア病棟を併設しており、緩和ケア病棟のカンファレンスへの参加を含め、サイコオンコロジーも学ぶことが出来る。平成３０年から認知症ケアチーム、精神科リエゾンチームを立ち上げ、活動しており、チーム医療に参加し、実践できるようになっている。

② 施設名：広島市立病院機構　広島市立広島市民病院

・施設形態：公的総合病院

・院長名：松川　啓義

・指導責任者氏名：和田　健

・指導医人数：（　2　）人

・精神科病床数：（　28　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	100	30
F1	10	3

F2	133	39
F3	365	116
F4　F50	415	68
F4 F7 F8 F9 F50	440	79
F6	5	4
その他	55	11

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

高度急性期医療を担う地域基幹病院の総合病院精神科である。多数の救急患者、重症患者、がん患者を対象としたコンサルテーション・リエゾンサービスを展開している。脳神経内科、脳神経外科との連携も良好で、脳神経疾患に伴う器質性精神障害の症例も多い。開放病棟を利用した入院診療では、気分障害を中心とした急性期医療、適応障害へのストレスケアなどを提供している。電気けいれん療法も麻酔科との連携のもと、年間 400 件以上を行っている。画像診断を含む初期診断を中心に認知症性疾患の診断治療を年間 120 件以上行っている。

③ 施設名：国立病院機構呉医療センター・中国がんセンター

・施設形態：公的総合病院

・院長名：繁田 正信

・指導責任者氏名：大盛　航

・指導医人数：（　2　）人

・精神科病床数：（　50　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	113	34
F1	68	9
F2	266	142
F3	920	122
F4　F50	557	50

F4 F7 F8 F9 F50	617	59
F6	12	1
その他	33	1

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

７００床を有する３次救急の総合病院であり、５０床が精神科病床である。気分障害を中心に多彩な疾患・症例を経験できる。特に入院では自殺を含む重症気分障害、難治性統合失調症、精神疾患を有する身体合併症患者などを広く受け入れており、修正型電気けいれん療法の施行数は県内で最多であり、クロザピン治療、光トポグラフィー検査の応用も経験できる。当院は臨床研究部（精神神経科学研究室）を併設しているのも特徴であり、臨床現場でニューロサイエンスの先端的研究が体得できる。

④ 施設名：地方独立行政法人広島市立病院機構　広島市立　北部医療センター安佐市民病院

・施設形態：公的総合病院

・院長名：永田　信二

・指導責任者氏名：撰　尚之

・指導医人数：（　3　）人

・精神科病床数：（　20　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	174	1
F1	101	2
F2	69	3
F3	155	5
F4　F50	201	0
F4 F7 F8 F9 F50	9	2
F6	3	0

その他	10	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は４３４床を有する総合病院であり、精神病床２０床を有している。令和5年１月より精神科病棟（閉鎖病棟）を稼働し、身体各科との円滑な連携のもと、身体合併症や器質性・症状性精神障害を含めた多様な精神疾患、症例を経験することができる。また、高度急性期医療を担う地域基幹病院として、自殺企図などの救急症例を受け入れることも多い。院内リエゾン診療を担当する「精神科リエゾンチーム」、認知症や高齢者を対象とした「認知症ケア・せん妄対策チーム」、がん患者を対象とした「緩和ケアチーム」といった多職種からなるチーム医療の一員として活動することで、知見を広げることができる。

⑤ 施設名：特定医療法人　大慈会　三原病院

・施設形態：民間単科精神科病院

・院長名：町野　彰彦

・指導責任者氏名：町野　彰彦

・指導医人数：（　3　）人

・精神科病床数：（　405　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	249	236
F1	68	48
F2	577	304
F3	287	69
F4　F50	238	37
F4 F7 F8 F9 F50	330	50
F6	30	7
その他	31	2

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は 405 床の精神科病床を有する精神科病院である。60 床の急性期治療病棟を有し他の 2 か所の精神科病院とともに広島県東部の精神科救急医療体制を担っている。主な医療圏は三原市や尾道市であるが、山陽道、尾道道、西瀬戸道とのアクセスが良く、福山市、東広島市、広島県北部、愛媛県からの患者も受け入れている。中山間地域や島しょ部に隣接しており地域における精神医療を学ぶことができる。105 床の認知症疾患治療病棟を有しており平成 22 年 7 月から広島県東部認知症疾患医療センターに指定されている。アルコールリハビリテーションプログラム、アルコール低減治療プログラムも有しており依存症治療も積極的に行っている。

⑥ 施設名：医療法人　せのがわ　瀬野川病院

・施設形態：民間単科精神科病院

・院長名：津久江　亮大郎

・指導責任者氏名：古庄　立弥

・指導医人数：（　5　）人

・精神科病床数：（ 325　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	164	85
F1	501	203
F2	1081	279
F3	394	109
F4　F50	297	25
F4 F7 F8 F9 F50	98	25
F6	78	14
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は広島県・広島市精神科救急医療センターと広島県西部地区精神科救急医療施設の指定を受けた県内の精神科救急の中核病院である。病床は 312 床。救急入院料病棟を 2 病棟 112 床を有する急性期症例の豊富な精神科病院であり、措置入院件数は毎年約 70 件である。修正型電気けいれん療法を実施しており、薬物療法抵抗性

や緊急性の高い症例へ対応している。地域ケアにも力を入れており、デイケアと訪問看護の件数はそれぞれ年間延べ４万件を超え、就労移行支援事業、就労継続支援事業Ｂ型、地域生活支援センターなど、地域生活を支援するためのトータルケアを行っている。広島県から依存症治療拠点機関の選定を受けており、アルコール依存症、薬物依存症、ギャンブル依存症等と対象に依存症リハビリテーション・プログラムを実施している。また、司法鑑定業務や刑務所での精神科診察など、司法精神医療についても経験可能である。近年増加している認知症に対しては、広島市東部認知症疾患医療センターに指定されている。
このように当院では、精神科救急、精神科リハビリテーション、依存症、司法精神医療、認知症など幅広い研修が可能である。

⑦ 施設名：医療法人社団更生会　こころホスピタル草津

・施設形態：民間単科精神科病院

・院長名：佐藤　悟朗

・指導責任者氏名：矢田　博己

・指導医人数：（　7　）人

・精神科病床数：（　429　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	1271	319
F1	267	105
F2	1876	400
F3	1256	312
F4　F50	740	79
F4 F7 F8 F9 F50	100	8
F6	84	17
その他	411	62

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、精神科救急医療施設であり、広島市西部認知症疾患医療センターも受託していることから、年間初診患者数２，３２９人（２０１７年度実績）と多くの症

例を経験することができる。

入院においても精神科救急病棟（５病棟２６５床、２０１９年３月１日現在）を保有しており、入院患者数は１，４９５人、平均在院日数は８９．１日（いずれも２０１７年度実績）と精神科急性期医療を十分学ぶことができる。

疾患については、統合失調症、認知症、気分（感情）障害・神経症性障害を中心とした診療を行っている。

統合失調症においては、救急診療体制（夜間・休日の入院件数２５７件、措置入院５８件、いずれも２０１７年度実績）を行っており、豊富な症例を経験することができる。また、治療抵抗性統合失調症に対してクロザピン・ｍ－ＥＣＴ治療を行っている。在院日数短縮化には退院後の手厚いフォロー体制が必要である。当院の外来リハビリテーションプログラムはデイケアのみでなく、軽症患者は就労支援事業所（就労移行・就労定着）、就労継続支援Ｂ型事業所、そして長期入院患者などの重症者には自立訓練事業所（中間施設）による在宅移行支援や３つの訪問看護ステーションによる訪問看護（３４，０９４件、２０１７年度実績）など多層性の地域生活支援を行っている。

認知症においては、認知症疾患医療センターの役割を担い、認知症の鑑別診断（７４４件、２０１７年度実績）・治療、認知症に伴う行動心理症状（ＢＰＳＤ）の入院治療（３４０件、２０１７年度実績）、また身体科、高齢者施設、地域包括支援センターなどとの連携を学ぶことができる。

気分障害においては、ストレスケア病棟による入院治療のみでなく、うつ病・不安症に対する集団認知行動療法や双極性障害の集団心理教育、復職のためのリワークプログラムなど、気分障害の初期治療から社会復帰支援まで幅広く学ぶことができる。

⑧　施設名：ふたば病院

・施設形態：民間単科精神科病院

・院長名：高見　浩

・指導責任者氏名：小鶴　俊郎

・指導医人数：（　４　）人

・精神科病床数：（　208　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	544	188

F1	11	7
F2	205	101
F3	216	40
F4　F50	161	9
F4 F7 F8 F9 F50	0	0
F6	9	3
その他	39	1

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

平成１６年９月に策定された「精神保健福祉施策の改革ビジョン」に基づき，当院でも精神障害者の地域医療および地域生活支援の強化を図っている。具体的には，①当法人内に属するケアマネジメント機関（障害相談支援事業・包括支援センター・居宅介護事業等）と精神科訪問看護による多職種での，患者あるいは障害の特性や課題に合わせた在宅訪問を基盤とした支援，②状態や希望，経済力に応じた複数のグループホーム（介護包括型及び外部利用型等）の整備により長期及び重度の入院患者の円滑な地域移行支援，③精神科デイナイトケア及びショートケアにおける，疾病教育や生活リハビリの提供，及び訪問看護，訪問リハビリ、地域活動支援センター等の２４時間サポート体制での地域定着支援・再発予防支援，④地域援助者を含む多職種による精神科デイナイトケア及び外来作業療法を通じ，社会参加を目標とした就労準備支援，⑤未受診者に対する相談及び初診から入院や通院までの一体的なケースマネジメント，などを行っている。また，呉圏域における高齢化率は広島県および全国水準を大きく上回っており，認知症疾患医療センターや認知症初期集中支援チームの活動を通じ，オレンジプランに掲げられた「認知症の早期診断・早期対応をきちんと行い，在宅生活をできるだけ長く」という目標の実現に向け，地域への訪問や認知症サロンの開催，医療・福祉・行政機関等との連携，認知症に関する普及啓発などの取り組みを行っている。また，当院は日本老年精神医学会専門医認定施設に認定されており，老年精神医学の専門的研修が可能である。

⑨ 施設名：医療法人　緑誠会　光の丘病院

・施設形態：民間単科精神科病院

・院長名：馬屋原　健

・指導責任者氏名：石岡　芳隆

・指導医人数：（　３　）人

・精神科病床数：（　175　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	178	52
F1	58	33
F2	467	80
F3	272	32
F4　F50	166	17
F4 F7 F8 F9 F50	249	29
F6	11	1
その他	9	4

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は広島県東部に位置する福山市（人口約 47 万人）という地方中核都市の郊外にある 175 床の小～中規模病院である。人口増加率の高い駅家町や神辺町を含む福山市北西部、そして高齢化率の高い府中市市街地区域における唯一の精神科病院として、また福山・府中二次医療圏における唯一の認知症疾患医療センターとして地域の総合的な精神科医療・相談機関としての役割を果たしている。平成 30 年 4 月より第７次広島県保健医療計画におけるアルコール依存症治療の地域連携拠点病院に指定されている。そして治療抵抗性統合失調症に対するクロザピンの登録医療機関でもある。

平成 29 年度の初診患者数は 520 人、1 日平均外来患者数は 107 人、入院患者数は 230 人、退院者数は 227 人である。また認知症疾患医療センターの実績としては認知症疾患外来患者数 1663 人（内鑑別診断数は 186 人、入院者数 61 人）である。当院の特徴の１つとして総合回診を毎週火曜日の午前中に常勤医師、看護師、薬剤師、PSW、CP、OTR、栄養士で行っている。各病棟の入退院報告、入院２か月経過時アセスメント、措置入院患者及び医療保護入院患者の定期病状報告を簡潔に行い多職種が参加し様々な意見を反映させる場として機能している。また治療の平準化を目指し３疾患（統合失調症、アルコール依存症、認知症）のクリニカルパスの導入しておりクリニカルパス推進委員会を発足してより良いクリニカルパスの作成及び実施に向けた検討を行っている。また、平成２８年９月に電子カルテを導入し今まで以上に業務の合理化、院内における情報の共有化を図り、多職種

協働によるより上質なチーム医療を実践している。

⑩ 施設名：医療法人翠星会　松田病院

・施設形態：民間単科精神科病院

・院長名：松田　文雄

・指導責任者氏名：松田　文雄

・指導医人数：（　3　）人

・精神科病床数：（　110　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	15	4
F1	6	1
F2	218	34
F3	195	16
F4　F50	523	5
F4 F7 F8 F9 F50	1108	54
F6	51	3
その他	59	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

乳幼児、児童思春期、成人期、老年期すべての年代に渡る精神科臨床を対象とする。中でも児童思春期は、他施設では経験できない県内唯一の児童思春期精神科専門病棟（３０床）を有しており、外来および入院で多数の臨床研修を履修できる。

当院は児童・思春期の心の問題に対して専門的治療を行っていることが特徴である。児童・思春期の心の問題には、不登校、自傷行為、家庭内暴力、引きこもり、摂食障害、強迫性障害、統合失調症や気分障害（双極性感情障害ほか）の精神疾患、発達障害など様々なものがあり、それらの問題は本人の心の苦しみを伝えるメッセージであったり、心の苦しみから逃れる為の手段であったりすることが多い。治療を行うに際しては、本人の言葉を傾聴し、態度や行動から伝わるものを受け止め、心の動きを理解していくことを大事にしている。そのことが安定した治療関係を作り上げ、本人の心の安定や成長に役立つと考えている。このような力動的精神医

学に基づき、病棟では毎日カンファレンスに様々な職種のスタッフが参加し、チーム医療、入院治療を行っている。児童・思春期の治療に際しては、家族、学校、職場関係者の方からの相談にも応じ、本人への関わりについて助言することも行っている。

外来は、月曜日から土曜日まで診療を行っている（初診５０件、再診１６００件／月）。精神科訪問看護は院内で行っており、広島市内全域を訪問（１１０件／月）。精神科デイケアは３つのプログラムがあり、集団活動や就労支援を目指す方のステップアップグループ、引きこもりの方等を対象とした個別グループ、さらに発達障害の診断のある小学生グループである。土曜日は心理技術者等と連携し、ペアレントトレーニングを行っている。外来患者の年齢層は２０歳未満が半数となっている。成人の発達障害診断目的のための患者も多く、必要に応じて診断のための検査入院プログラムがある。また、他機関と連携しながら就労に向けて取り組んでいる実績がある。

平成３０年４月より、第７次広島県保健医療計画（精神疾患対策）における発達障害および児童・思春期精神疾患の県連携拠点機能の役割を担う医療機関として、摂食障害に対応できる地域連携拠点機能の役割を担う医療機関として指定を受けている。

⑪ 施設名：広島第一病院

・施設形態：民間単科精神科病院

・院長名：松岡　龍雄

・指導責任者氏名：松岡　龍雄

・指導医人数：（　5　）人

・精神科病床数：（　200　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	63	62
F1	4	33
F2	291	84
F3	193	31
F4　F50	1	8

F4 F7 F8 F9 F50	43	22
F6	1	8
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

地域精神科医療に積極的に取り組んでいます。専門医療としては、難治性精神疾患治療（クロザピン・ｍ－ＥＣＴ)、認知症があり、各ステージに合わせた専門治療が可能です。また、医療観察法指定通院医療機関に指定されており司法精神医学も取り組んでいます。また、精神科救急施設ではありませんが、積極的に時間外等の救急患者の対応も行っています。入院患者の中に身体合併症を有する患者が多いのも特徴で、なるべく他院ではなく院内で診るような体制で取り組んでいます。また、通所リハは精神科デイケア・重度認知症デイケアを有し、精神科在宅医療も訪問看護ステーションから２４時間サービスを提供し、様々な精神疾患をもつ在宅患者を支援しています。

⑫ 施設名：医療法人社団　知仁会　メープルヒル病院

・施設形態：民間精神科病院

・院長名：石井　知行

・指導責任者氏名：石井　知行

・指導医人数：（　2　）人

・精神科病床数：（　296　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	９３７	２５４
F1	4	9
F2	５２１	１２１
F3	１８９３	1
F4　F50	１６３	２１
F4 F7 F8 F9 F50	１７８	３８

F6	0	0
その他	１８	２４

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

精神一般・精神療養病棟、認知症治療病棟、療養病棟、介護療養型医療施設から病棟は成り立っている。

身体－精神－社会の三つの軸においてトータルに理解し治療と支援を行うという基本理念から精神疾患患者に対しても身体合併症に対する検査と治療を手厚く行っている。

認知症高齢者の処遇は軽度と重度を一緒に処遇するべきではないとの考えから軽度･中等度･重度･最重度･身体合併症病棟(Medical Psychiatric Unit-Dementia、MPU-D) と５つの異なったタイプの病棟に分けている。重症度に応じた設備、リハビリプログラムを用意し、MPU-D は必要に応じて内科医、神経内科医、精神科医による複数主治医制としている。精神疾患に対しては地域活動支援センターみらい、一体型指定共同生活開度事業所あいきらきらホームにより地域移行と地域生活サポートを行っている。高齢者に対しては介護老人保健施設、通所デイケア、訪問看護など各種介護保険施設によりサポートしている。家族が認知症に気付くと医療は敷居が高いため、地域包括支援センターや居宅介護支援事業所などに相談し、介護保険の適用で終わり重度化してから医療を受診することが多くみられる。地域包括支援センターと認知症疾患医療センターを合併してワンストップで早期診断早期介入できる合併型センターを全国で１か所のみモデル事業中である。これに認知症初期集中支援チーム､認知症地域支援推進員を併設して地域連携パスにより家族･利用者、かかりつけ医など他の社会資源とネットワークを構成している。

⑬ 医療法人社団せがわ会　千代田病院

・施設形態：民間単科精神科病院

・院長名：瀬川　昌弘

・指導責任者氏名：瀬川昌弘

・指導医人数：（　２　）人

・精神科病床数：（　　158　　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	172	140

F1	7	3
F2	61	13
F3	178	42
F4　F50	98	8
F4 F7 F8 F9 F50	62	0
F6	7	0
その他	435	22

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は広島県北部に位置する単科精神科病院であり、重度認知症患者デイケア、精神科デイケアを有し、平成 25 年より広島県北部・安芸・認知症疾患医療センターを開設している。一般精神科疾患を広く網羅しつつ、特に老年期精神障害、各種認知症の症例を豊富に経験することができ、一般病院では管理の難しい身体合併症を有する高度認知症患者を積極的に受け入れている。当院には理学療法士が常勤し、高度認知症を有する骨折術後のリハビリテーションも積極的に取り組み、ADL が改善し地域社会へと退院していく過程を経験できる。また、認知症の中核症状・周辺症状に対する薬物療法や、逆に薬物に頼らないケアの方法を実践しており、診断ありきではなく患者一人一人の心理状態の把握を大切にしている。院内に園芸用地を広く確保しており、それぞれの病棟からも直接行くことができる配置は県内でも珍しく、園芸療法による精神症状の改善を経験することができる。

⑭ 施設名：恵愛会　安佐病院

・施設形態：民間単科精神科病院

・院長名：檜山　俊夫

・指導責任者氏名：檜山　俊夫

・指導医人数：（　5　）人

・精神科病床数：（　390　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	１１９	１５２

F1	６３	５４
F2	２５２	２５０
F3	２０９	４６
F4　F50	１３９	１３
F4 F7 F8 F9 F50	２５６	２７
F6	9	1
その他	４４	4

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は３９０床を有する精神科病院です。昭和３３年４月に開設し、地域に密着した医療を提供してまいりました。入院は精神科入院基本料(１５：１)１３５床、認知症治療病棟６０床、精神療養病棟１８０床を有しています。外来は一般外来に加えて、もの忘れ外来（認知症サポート医・臨床専門医が担当)、児童思春期外来（子どものこころ専門医が担当)、発達障害外来（児童青年精神医学会認定医が担当）を開いています。また、併設施設として精神科デイケアと介護老人保健施設があります。

当院の特徴は、地域包括医療に力を入れていることです。これからの医療は、入院治療、通院治療、地域における受け入れを整備し、地域全体で患者を支えていくことが必要です。高齢化が進む社会の中で、当院では、認知症、妄想性障害、老年期うつ病などの老年期精神疾患に対して、幅広く対応しております。

特に、認知症につきましては、安佐市民病院脳神経内科を中心に当院を含む１５施設のネットワークでオレンジ手帳を発行し、患者情報の共有をおこない、認知症の進行に応じて対応できるシステムを構築しています。

診断は専門医がいる当院を含む１５施設で行っております。中核症状があればかかりつけ医で、心理行動障害があれば精神科病院で、といったように各施設・病院で機能分担をして対応をしております。そして、地域全体で患者を支援していくことを目的としたシステムになっています。このシステムをより良いものにしていくために、１５施設共催の研修会「ハートフォーラム」（当院も世話人会のメンバーです）を年間３回開催して、多職種の研鑽をおこなっております。

専門医研修では、認知症を中心とした老年期精神障害についての地域包括医療が体験できます。地域包括医療とは、自宅での良質な生活をできるだけ保障していくことであり、そのために通院治療を原則とし、精神的興奮が激しいときにはすみやかな入院治療をおこない、精神的に安定すればふたたび地域に帰していくということです。

入院中の治療は、精神療法、運動療法、薬物療法を包括的に進めていきます。当

院では、スタッフ間の協力体制を重視しており、優れた認知症治療の実践を目的とし、医師のみならず他職種で定期的に勉強会を開いています。

以上のように、当院の専門医研修では、地域医療ネットワークを用いた包括的な認知症治療を体験することができます。

⑮ 施設名：医療法人仁康会　小泉病院

・施設形態：民間単科精神科病院

・院長名：杉江　拓也

・指導責任者氏名：杉江　拓也

・指導医人数：（　3　）人

・精神科病床数：（　392　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	261	250
F1	49	49
F2	280	266
F3	199	64
F4　F50	123	23
F4 F7 F8 F9 F50	49	30
F6	11	1
その他	28	4

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

昭和 21 年４月始祖谷本康子による谷本医院を開業。昭和 31 年１１月小泉病院を創設。幾星霜を経て現在は医療法人仁康会小泉病院（392 床）と関連医療施設として本郷中央病院（137 床・内科・外科など）及び港町クリニック（精神科）を有し同法人内における医療ネットワークシステムは体系化されている。

小泉病院は広島県東部地区精神科救急医療施設に指定された県内東部の中核病院であり、精神科急性期治療病棟Ⅰ60 床、認知症疾患治療病棟Ⅰ50 床、グループホーム及び共同住居入所者数 63 名、就労継続支援Ｂ型事業所（製パン工場、野菜出荷農

場）を有し急性期医療から社会復帰に至るまでのゲートキーパーとしての役割を担っている。近年増加傾向にある認知症疾患については、物忘れ外来や認知症初期集中支援チームにも取り組んでいる。また、広島県よりひきこもり相談支援センター事業を委託され実施している。当院のインセンティブとして身体合併症患者の急変時には内科常勤医が積極的に対応し転院治療が必要な場合には迅速に同法人本郷中央病院が受け入れており身体疾患対応に苦慮する場面は少ない。

将来的なビジョンとして地域包括支援を強化して公的組織及び行政機関の機能を代替補完する柔軟なシステムを担う中心的組織として同法人港町クリニックに位置付け、地域包括支援センター、デイケア、訪問看護、島嶼部（因島、瀬戸田）に出張診療も行いキャッチメントエリアを島嶼部のみならず尾三地区全域に拡大し地域連携を重視した診療体制を整備する計画にある。

指導体制として近年は常勤医師数が増加傾向にあり、加えて関西医科大学や近畿大学からも多数の非常勤医師が勤務しており毎週医局会にて新患紹介及び症例検討会が開催され若手の先生方も活発な意見交換が行われている。また指定医の取得は容易で指導医らが積極的に症例を提供指導しており、過去にも数多くの先生方が短期間でレポート作成を行い精神保健指定医を無理なく取得している。

院外活動として、天然芝・ナイター照明・観客席が設備された唯一無二の野球場を有し、元プロ野球選手や甲子園出場経験者ら当院職員を中心とした社会人野球チーム（1 部リーグ）は広島県代表として国体や天皇杯への出場経験があり、他にも柔道部、将来的に女子ソフトボール部を計画している。現在当院若手の先生方が活動に参加しており、スポーツに興味のある先生は当院での恵まれた環境で一緒に汗を流して頂くことは大いに大歓迎である。

⑯ 医療法人緑風会　ほうゆう病院

・施設形態：民間単科精神科病院

・院長名：長尾　正嗣

・指導責任者氏名：寺本　勝哉

・指導医人数：（　2　）人

・精神科病床数：（　323　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	49	134
F1	2	5

F2	27	219
F3	26	49
F4　F50	23	5
F4 F7 F8 F9 F50	26	15
F6	0	0
その他	190	19

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は呉市・江田島市からなる呉地域医療圏にある 323 床（精神科一般病棟 149 床・精神療養病棟　120 床・認知症治療病棟　54 床）の精神科病院である。介護老人保健施設やサテライトクリニックなどを併設し、地域精神科医療の一角を担っている。

疾患群は、統合失調症圏・認知症圏・気分障害圏を中心に、身体合併症（身体合併症病棟あり）にも可能な限り対応し、思春期から高齢者までの幅広い年齢層と疾患群に対してプライマリーの対応から、急性期、慢性期に至るまで、ライフサイクルに合わせた多種多様な疾患や病態が経験可能である。特に、2017 年 10 月からは認知症初期集中支援チームが稼働を開始し、地域における認知症の初期対応にも力を入れている。さらに、2018 年 4 月より統合失調症の地域拠点病院に指定された。

また、電子カルテを導入し、院内における情報の共有化と業務の合理化を図り、多職種と連携しやすいチーム医療を目指している。

研修プログラムでは、一般診療、薬物療法（クロザピン登録医療機関）やＥＣＴのみならず、作業療法、ＳＳＴ、精神科デイケア、重度認知症デイケア、訪問看護、家族教室などを経験することができ、外来治療、入院治療（急性期から退院支援まで)、精神科リハビリテーションなど、多職種による精神科チーム医療を学ぶことができる。

措置入院も年間１０例以上あり、思春期疾患の入院もあります。

精神科救急は行なっていないものの、積極的に救急患者の対応も行っており、精神科医としてのアイデンティティを確立する上で最低限の経験とスキルを一通り身につけることが可能である。

⑰ 地方独立行政法人広島市立病院機構　広島市立　舟入市民病院

・施設形態：公的総合病院

・院長名：髙蓋 寿朗

・指導責任者氏名：黒崎　充勇

・指導医人数：（　1　）人

・精神科病床数：（　0　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	3	0
F1	0	0
F2	2	0
F3	11	0
F4　F50	227	0
F4 F7 F8 F9 F50	427	0
F6	9	0
その他	26	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は広島市中区に立地する全 18 診療科、156 床の総合病院である。小児救急医療拠点病院として市内全域にとどまらず市域外周辺地域の一次救急を担っている小児科、第二種感染症指定医療機関として位置付けられている感染症科を持つ。

当小児心療科は、2004 年 4 月、日本ではまれな公立病院の小学・中学・高校年齢の神経症などを主な治療対象とした小児専門心療科として開設された。立ち上げから 14 年を経て、関係機関から一定の評価を得ている。現在常勤の医師 3 名、常勤保健師 1 名、常勤心理療法士 1 名、非常勤保健師 1 名、非常勤クラーク 1 名がスタッフとして勤務している。来院主訴としては、心身の不調と不登校の割合が約 4 分の 3 を占め、病態は小児心身症、対人恐怖、強迫性障害などの神経症や引きこもりである。また近年クローズアップされている虐待、剥奪やネグレクトの問題など、こころの苦悩を背景に抱える子どもが増えつつある。

治療については、患児に対する個人療法としておおむね小学生には描画、粘土や遊びなどを介した遊戯療法、中高生には言葉を介した精神療法を行い、親に対する家族ガイダンスも適宜併用し、個別の症例に時間をかけ丁寧に治療することを心がけている。その他にも小学高学年生～中学生の不登校引きこもりの子どもに対するグループ療法(スポーツ、ゲームなどのレクリエーションを通して対人緊張の緩和を図る)、またその家族に対する親グループ療法(親同士の情報交換・親睦を図り、支え合う)を行っている。また頻回のカンファレンスを実施し、症例の見立てや治療の流

れについて全スタッフで検討している。重症例についてはケースワーカーを交え、家族はもちろん学校関係者、児童相談所、施設の職員などとともに連携会議を開き対応策を検討している。このように子どもと家族のニーズに沿うような治療環境を整備し、またわれわれ自身の治療技術の研鑽と後進の指導をしている。

⑱ 施設名：広島市こども療育センター

・施設形態：総合療育センター 診療所

・院長名：夜船展子

・指導責任者氏名：板垣圭

・指導医人数：（　３　）人

・精神科病床数：（　０　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	０名	０名
F1	０名	０名
F2	６名	０名
F3	１名	０名
F4　F50	12 名	０名
F4 F7 F8 F9 F50	538 名	０名
F6	０名	０名
その他	０名	０名

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当センターは、療育相談所における外来相談・診療（精神科、小児科、耳鼻科、整形外科、歯科）と児童福祉施設（情緒障害児短期治療施設《寄宿・通所》および知的障害・肢体不自由・難聴の３幼児通園施設）よりなる総合相談センターである。敷地内に、併設機関として、広島市発達障害者支援センター、広島市児童相談所・一時保護所、知的障害者更生相談所、障害者職業センター、教育委員会の青少年総合相談センター分室・適応指導教室、校区小中学校の分級がある。

精神科は、昭和４９年の開設で、年間外来新患数はおよそ 800 である。主として小学生から高校卒業までを対象としており、疾患としては自閉スペクトラム症、注意

欠如・多動症などが多い。
主訴としては、上記障害の症状以外に不登校、学習困難、チック、吃音、選択性緘黙、家庭内暴力、自傷行為、被虐待などもみられる。
広島市こども療育センター、西部こども療育センター、北部こども療育センターの３センターの小児科でフォローしてきたが学童期以降に行動障害や情緒障害を示してきた子どもの診療にもあたっている。
診断面接や心理検査の後、診断を確定し、療育的指導や薬物療法、精神療法、療育教室などを選択する。学童期以上の療育教室は、ソーシャルスキル・トレーニングを取り入れたものを含んで現在３種類行われている。吃音に対しては言語聴覚士による評価を、発達性協調運動障害に対しては作業療法士による評価を行い、必要に応じて訓練を行う。何れの場合も主治医として、薬剤師、看護師、心理士、理学療法士（PT)、言語聴覚士（ST)、作業療法士（OT)、理学療法士（PT）などと密に連携し、事例検討を行って治療の進捗状況や課題を整理し、また勉強会を行って最新の知見の習得に努め、親の養育機能を高めるペアレント・トレーニングなどをさらに充実させていく予定である。
当センターに通院中の患児の保護者を対象として､心理教育講座を年複数回開催し、分担して講師を務めている。他に、新任の教師や発達支援コーディネーターを対象に各々外部講師を務め、発達障害の理解と支援の普及啓発に貢献している。
また、地域の大学、専門職養成機関にも業務協力しており、教師・保育士・ＰＴ・ＯＴ・ＳＴ・看護師・保健師・ＣＷ・心理士の単位実習や論文指導の援助に当たっている。
医学生および医師のためには、日本精神神経学会の指定研修施設、広島大学の精神科アドバンストコース・広島市民病院の卒後前期研修および日本小児神経学会研修指定の協力施設をつとめている。

⑲ 医療法人社団仁和会　児玉病院

・施設形態：民間単科精神科病院

・院長名：中井俊一

・指導責任者氏名：児玉洋幸

・指導医人数：4 人

・精神科病床数：396 床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	57	131

F1	5	8
F2	25	240
F3	46	51
F4　F50	30	11
F4 F7 F8 F9 F50	20	20
F6	2	0
その他	95	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、昭和 24 年に開業した単科精神科病院で広島市安佐北区に位置している。安佐北区は、広島市の最北部に位置し、安芸太田町、北広島町、安芸高田市、東広島市と接しており、面積は広島市８区の中で一番広く、市域の約４割を占めている。当院では、この安佐北区のみならず、隣接する安佐南区を始めとする広島市内、および広島県北部の各地域からの数多くの患者さんの診療を担っている。

病床数は 396 床(精神病棟 168 床、精神療養病棟 168 床、認知症治療病棟 60 床)で、全 7 病棟(開放病棟 3 病棟、閉鎖病棟 4 病棟)から構成されている。

基本理念「自立促進」のもと、できるだけ地域での生活が続けられるよう、入院後も、早期の退院を目指して、入院当初に多職種でのチームカンファレンスを実施し、患者さんの背景や環境、治療方針など共有している。また病状が改善し退院に向けては、当院のデイケアや訪問看護を活用してもらうことを提案したり、退院後も多職種で関わり合いながら情報を共有し、再入院することなく地域での生活を維持できるよう支援している。

当院での研修では、主に統合失調症、認知症の患者さんが対象となる。特に、近年は地域のかかりつけ医の先生方から、認知症の暴力や介護抵抗など行動心理症状で対応が難しくなったケースの入院治療を積極的に受け入れており、これらの患者さんに対しての薬物療法、精神療法などが経験できる。高齢者は身体合併症を有する患者さんも多いが、入院中は当院に在籍する他科の医師とも連携し、診療を提供している。また退院に際しては、精神保健福祉士が家族の意向にも配慮し、各施設や地域との連携をとり適切な退院支援を行っている。当院には認知症サポート医もおり、認知症初期集中支援チームにも所属し、地域での認知症の症状に合った対応等のアドバイスや、必要に応じて当院を含む専門医療機関への受診促しや調整、必要な介護サービス等へのつなぎを行っている。

統合失調症に関しては、入院では慢性期の患者さんが多いが、精神科作業療

法やSST、院外活動などを通して社会復帰を支援している。

当院には地域医療連携室があり、受診や入院の相談や、退院への支援などに精神保健福祉士が中心となり幅広く対応している。

このように当院では、外来から入院、そして退院後の地域での生活まで、縦断的な一貫した医療を提供しており、これらを包括的に学ぶことが可能な研修プログラムとなっている。

⑳ 施設名：医療法人正雄会　呉みどりヶ丘病院

・施設形態：民間単科精神科病院

・院長名：長尾　早江子

・指導責任者氏名：水馬　裕子

・指導医人数：（　1　）人

・精神科病床数：（　275　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	2	2
F1	481	396
F2	40	5
F3	44	1
F4　F50	56	1
F4 F7 F8 F9 F50	267	2
F6	9	1
その他	99	1

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は275床を有する精神科病院で、広島県依存症専門医療機関に指定され、アルコール依存症を中心に診療を行っている。

アルコールリハビリテーションプログラムとして教育プログラムの他、ＳＭＡＲＰＰ、再飲酒防止プログラム、院内ミーティング・例会、作業療法、栄養指導、口腔ケアなどで、多職種の関わりで構成され、集団療法、個別療法を使い分け、治療効果を得ている。退院支援については、退院支援委員会や精神科退院前訪問指

導を行い、チーム医療を前提とし、オーダーメイド治療・支援の視点を取り入れている。家族支援にも力を入れ、家族のつどいや家族教室、ＣＲＡＦＴなどを多職種で実施している。早期介入の視点に基づき、ＳＢＩＲＴＳの手法も取り入れ、開設当初より自助グループとの連携に重点を置いてきた。近年では地域医療(一般科)との連携にも力を入れており、また、広島県アルコール健康障害対策連絡協議会へも参加し、アルコール健康障害対策基本法に基づいた県健康障害対策推進計画の策定や取組みに参画している。退院後の支援としては、精神科デイナイトケア、精神科訪問看護を実施、再発防止と再発時の早期介入を目指している。児童・思春期外来の診療も行っており、地域の特別支援学校や児童相談所等との連携を図っている。現在では、呉圏域における発達障害の地域連携拠点医療機関に指定され、地域の医師を対象とした陪席研修も実施している。

㉑ 医療法人社団吉田会　吉田病院

・施設形態：民間単科精神科病院

・院長名：吉田昌平

・指導責任者氏名：吉田玲夫

・指導医人数：（１）人

・精神科病床数：(131）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	54	28
F1	12	7
F2	144	82
F3	204	3
F4　F50	40	0
F4 F7 F8 F9 F50	0	0
F6	15	7
その他	44	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

広島県江田島市に所在する精神科専門病院です。当院では①心のケアを必要とす

る方に、双方向のコミュニケーションや協働的に問題解決することを通じて治療的信頼関係を構築し、ケースに応じて支持的、あるいは認知行動療法的に介入し　、その方が価値ある人生を送れるように支援する。②心のケアだけでなく、身体疾患にも対応するなど全人的な医療を行うことを基本的な治療姿勢にしています。

当院は、これまで精神科医療機関として江田島市において①急性期から回復期の精神科医療②作業療法などの精神科的リハビリ③地域での他の機関と連携しながら精神保健福祉分野での包括的生活支援サービス④精神医療分野における地元行政機関への提言⑤精神科的な予防活動、スティグマ軽減・啓蒙活動などの役割を担い、地域精神医療を推進してまいりました。

平成 29 年からは 24 時間訪問巡回介護サービスを開始するなど、精神科ユーザーの方やご家族と「いつも顔の見える」密な関係の中で、「住み慣れた地域で安心した生活を」を送れるように、一層生活支援をしていく予定です。

当院での研修で対象となる精神疾患は、高齢化が進む地域に立地する病院の特性上、老年期精神障害、感情障害、不安障害、統合失調圏の精神障害、アルコールなどの物質使用障害、発達障害が主になると思われます。

また当院での研修内容は、当院の治療のメインである①認知行動療法の基本的な理論学習から始まり、②個人や場合によってはご家族を含めた認知行動療法の実施、③クライエントの情報や治療目標の共有などを通じて、他職種との連携など病院内チーム精神医療の実践や地域の行政や医療機関や障害者支援機関との連携などを地域精神医療の実践などになります。

３．　研修プログラム

１）　年次到達目標

専攻医は精神科領域専門医制度の研修手帳にしたがって専門知識を習得する。研修期間中に以下の領域の知識を広く学ぶ必要がある。1.患者及び家族との面接、2.疾患概念の病態の理解、3.診断と治療計画、4.補助検査法、5.薬物・身体療法, 6.精神療法、7.心理社会的療法など、8.精神科救急、9.リエゾン・コンサルテーション精神医学、10.法と精神医学、11.災害精神医学、12.医の倫理、13.安全管理。各年次毎の到達目標は以下の通りである。

到達目標

１年目：基幹病院または連携病院で、指導医と一緒に統合失調症、気分障害、器質性精神障害の患者等を受け持ち、面接の仕方、診断と治療計画、薬物療法及び精神療法の基本を学び、リエゾン・精神医学を経験する。とくに面接によって情報を抽出し診断に結びつけるとともに、良好な治療関係を構築し維持することを学ぶ。精神療法の習得を目指し認知行動療法、精神分析的精神療法、精神力動療法のいずれかのカンファレンス、セミナーに参加する。また、児童・思春期精

神障害の診断・治療を経験する。院内研究会や学会で発表・討論する。
２年目：連携病院で、指導医の指導を受けつつ、自立して、面接の仕方を深め、診断と治療計画の能力を充実させ、薬物療法の技法を向上させ、精神療法として認知行動療法と力動的精神療法の基本的考え方と技法を学ぶ。精神科救急に従事して対応の仕方を学ぶ。神経症性障害の診断・治療を経験する。ひきつづき精神療法の修練を行う。院内研究会や学会で発表・討論する。
３年目：指導医から自立して診療できるようにする。連携病院はより幅広い選択肢の中から専攻医の志向を考慮して選択する。認知行動療法や力動的精神療法を上級者の指導の下に実践する。慢性統合失調症患者等を対象とした心理社会的療法、精神科リハビリテーション・地域精神医療等を学ぶ。パーソナリティー障害および種々の依存症患者の診断・治療を経験する。外部の学会・研究会などで積極的に症例発表する。

２）　研修カリキュラムについて

研修カリキュラムは、「専攻医研修マニュアル」（別紙）、「研修記録簿」（別紙）を参照。

３）　個別項目について

①　倫理性・社会性

基幹施設において他科の専攻医とともに研修会が実施される。コンサルテーションリエゾンを通して身体科との連携を持つことによって医師としての責任や社会性、倫理観などについても多くの先輩や他の医療スタッフからも学ぶ機会を得ることができる。

②　学問的姿勢

専攻医は医学・医療の進歩に遅れることなく、常に研鑽自己学習することが求められる。すべての研修期間を通じて与えられた症例を院内の症例検討会で発表することを基本とし、その過程で過去の類似症例を文献的に調査するなどの姿勢を心がける。その中で特に興味ある症例については、地方会等での発表や学内誌などへの投稿を進める。

③　コアコンピテンシーの習得

研修期間を通じて、１）患者関係の構築、２）チーム医療の実践、３）安全管理、４）症例プレゼンテーション技術、５）医療における社会的・組織的・倫理的側面の理解、を到達目標とし、医師としてのコアコンピテンシーの習得を目指す。さらに精神科診断面接、精神療法、精神科薬物療法、リエゾンコンサルテーションといった精神科医特有のコンピテンシーの獲得を目指し、下に示す講義を実施する。

専攻医研修会（クルズス）（水曜日）

- **症候学①**
- **症候学②**
- **症候学③**
- **症候学④**
- **症候学⑤**
- **精神保健福祉法**
- **薬物療法①**
- **薬物療法②**
- **精神科身体療法**
- **面接技法、支持的精神療法**
- **認知行動療法**
- **精神分析的精神療法**
- **心理社会的支援、ソーシャルワーク、デイケア**
- **心理検査**
- **精神科医が知っておくべき神経内科学**
- **精神科医が知っておくべき脳画像診断学**
- **脳波（判読）**
- **精神科救急**
- **コンサルテーション・リエゾン精神医学**
- **サイコオンコロジー、緩和ケア**
- **こどもの診たて**
- **児童福祉・虐待**
- **器質性・症状性精神障害**
- **統合失調症**
- **アルコール症**
- **不安症、強迫症**
- **摂食障害**
- **パーソナリティ障害**
- **自閉症スペクトラム・ADHD、精神遅滞**
- **疼痛性障害・身体表現性障害**
- **睡眠障害**
- **てんかん**
- **認知症**

上の33項目の講義を実施する（1サイクル/2年）
3年間の専攻中に全てを1回は受講することとする

④　学術活動（学会発表、論文の執筆等）

基幹施設において臨床研究、基礎研究に従事しその成果を学会や論文として発表する。

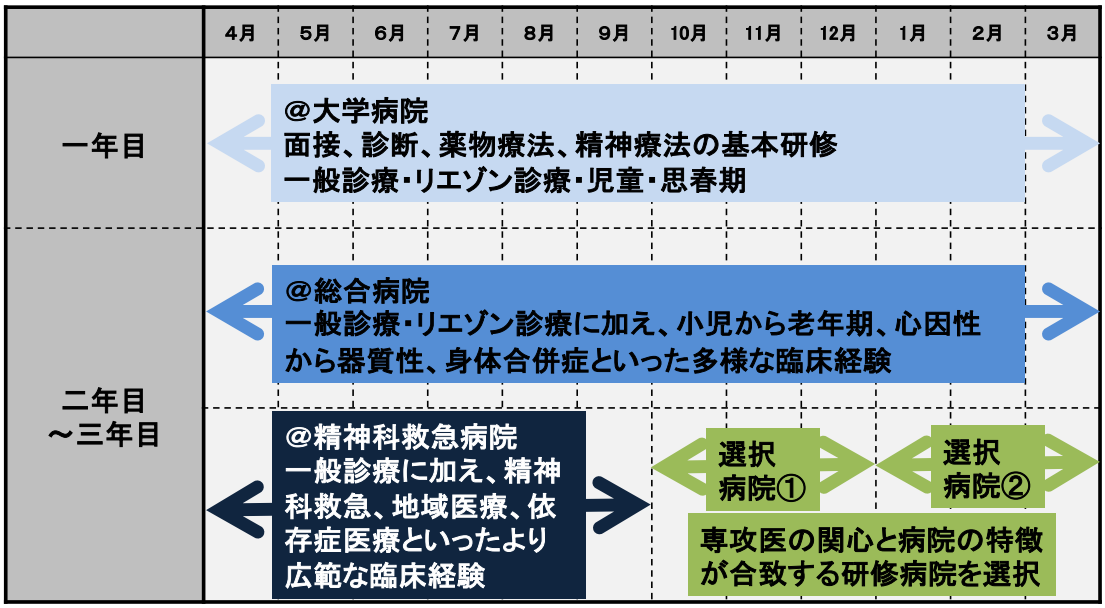
⑤　自己学習

患者の問題点を正しく把握し、自分なりに解決しようとする自主的・積極的態度が要求され、医師自身を見つめる態度も重要である。患者を診療する際に現在有している最善を尽くし、その上でわからぬところ、足りないところを正しく把握して自ら勉強し、より良い医療の提供に努める。そのため、自主研修日が定められている。

４）　ローテーションモデル

年度研修計画の概要を下に示す

広島大学精神科を基幹施設とした年度研修計画



＃1．毎年9月、3月に研修施設群全体で専攻医の研修状況を確認
＃2．毎年度末には、各専攻医の目標達成度を評価/フィードバック
＃3．各研修施設での研修修了時にも評価/フィードバック

選択先研修病院

専門性	研修病院名
地域医療・社会復帰支援	第一病院、ふたば病院、ほうゆう病院、吉田病院、小泉病院、安佐病院、児玉病院
老年期精神医療	メープルヒル病院、光の丘病院、千代田病院
児童・思春期精神医療	松田病院、舟入病院、広島市こども療育センター
薬物依存・アルコール症	瀬野川病院、三原病院、呉みどりヶ丘病院
気分障害リワーク	こころホスピタル草津

典型的には１年目に基幹病院である広島大学病院をローテートし、精神科医としての基本的な知識を身につけるとともに児童・思春期症例を経験する。２～３年目には総合病院精神科（県立広島病院、呉医療センター、広島市民病院、安佐市民病院、）、単科精神科病院（瀬野川病院、三原病院、こころホスピタル草津）をローテートし、身体合併症治療、難治・急性期症例、認知症症例、依存症症例などを幅広く経験し、精神療法、薬物療法を主体とする治療手技、生物学的検査・心理検査などの検査手法、精神保健福祉法や社会資源についての知識と技術を深めていく。３年目下半期には、各専攻医の関心と病院の特徴が合致する研修先を選択可能であり、専門医取得後の更に高度な専門性の獲得に繋がる研修となる。専門領域として、地域医療、社会復帰支援、老年期精神医療、児童・思春期精神医療、薬物依存・アルコール症医療、気分障害リワークなど幅広く選択可能である。

これら３年間のローテート先や順序については、本人の希望に応じて柔軟な対応が可能である。

5） 研修の週間・年間計画

本プログラム冊子末尾の資料１から資料３を参照。いずれの施設においても、就業時間が週 40 時間を超える場合は、専攻医との合意の上で実施される。

4． プログラム管理体制について

・プログラム管理委員会

・プログラム統括責任者

岡田剛

・連携施設における委員会組織

各連携病院の指導責任者および実務担当の指導医によって構成される。



5． 評価について

1）評価体制

広島大学病院：岡田剛、淵上学、増田慶一、大村淳、角芙美、大賀健市、
中山満誉、岩田尚大

県立広島病院：高畑紳一
広島市立広島市民病院：和田健
呉医療センター・中国がんセンター：大盛航
広島市立北部医療センター安佐市民病院：撰尚之
三原病院：町野彰彦
瀬野川病院：古庄立弥
こころホスピタル草津：矢田博己
ふたば病院：小鶴俊郎
光の丘病院：石岡芳隆
松田病院：松田文雄
第一病院：松岡龍雄
メープルヒル病院：石井知行
千代田病院：瀬川昌弘
安佐病院：檜山俊夫
小泉病院：杉江拓也
ほうゆう病院：長尾正嗣
舟入市民病院：黒崎充勇
広島市こども療育センター：板垣圭
児玉病院：児玉洋幸
呉みどりヶ丘病院：水馬裕子
吉田病院：吉田玲夫

2）評価時期と評価方法

- ３か月ごとに、カリキュラムに基づいたプログラムの進行状況を専攻医と指導医が確認し、その後の研修方法を定める。
- 毎年９月、３月に研修施設群全体で専攻医の研修状況を確認し、評価する。
- 毎年度末および各研修施設での研修修了時には、当該研修施設の指導責任者と専攻医がそれぞれ各専攻医の目標達成度を評価し、フィードバックする。
- 毎年度末に１年間のプログラムの進行状況並びに研修目標の達成度を指導責任者が確認し、次年度の研修計画を作成する。またその結果を統括責任者に提出する。
- その際の専攻医の研修実績および評価には研修記録簿／システムを用いる。

3）研修時に則るマニュアルについて

「研修記録簿」（別紙）に研修実績を記載し、指導医による形成的評価、フィードバックを受ける。総括的評価は精神科研修カリキュラムに則り、少なくとも年１回おこなう。

広島大学病院にて専攻医の研修履歴（研修施設、期間、担当した専門研修指導医）、研修実績、研修評価を保管する。さらに専攻医による専門研修施設および専門研修

プログラムに対する評価も保管する。

プログラム運用マニュアルは以下の専攻医研修マニュアルと指導医マニュアルを用いる。

- 専攻医研修マニュアル（別紙）
- 指導医マニュアル（別紙）

・専攻医研修実績記録

「研修記録簿」に研修実績を記録し、一定の経験を積むごとに専攻医自身が形成的評価をおこない記録する。少なくとも年に１回は形成的評価により、指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って、各分野の形成的自己評価をおこなうこと。研修を修了しようとする年度末には総括的評価により評価が行われる。

・指導医による指導とフィードバックの記録

専攻医自身が自分の達成度評価をおこない、指導医も形成的評価をおこない記録する。少なくとも年１回は指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って、各分野の形成的評価をおこない評価者は「劣る」、「やや劣る」の評価をつけた項目については必ず改善のためのフィードバックをおこない記録し、翌年度の研修に反映させる。

６．　全体の管理運営体制

１）　専攻医の就業環境の整備（労務管理）

各施設の労務管理基準に準拠する。

なお、各年度における当直の目安は以下の通り。

＜大学病院（１年目）＞　当直：月３回程度

＜総合病院（２年目）＞　オンコール待機：月４～５回程度

＜精神科病院＞　当直：月３～４回程度

２）　専攻医の心身の健康管理

各施設の健康管理基準に準拠する。

３）　プログラムの改善・改良

基幹病院の統括責任者と連携施設の指導責任者による委員会にて定期的にプログラム内容について討議し、継続的な改良を実施する。

４）　ＦＤの計画・実施

年１回、プログラム管理委員会が主導し各施設における研修状況を評価する。

基幹：広島大学病院精神科

年間スケジュール

月	カリキュラム
4月	オリエンテーション 基本研修講義
5月	県内多施設症例検討会参加
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	広島精神神経学会参加・演題発表 県内多施設症例検討会参加
8月	中国6大学研修医研修会
9月	日本生物学的精神医学会参加（任意） 中国地区GHP（総合病院精神医学）研究会参加
10月	県内多施設症例検討会参加
11月	中国・四国精神神経学会参加・演題発表 日本総合病院精神医学会参加（任意） 日本臨床精神神経薬理学会参加（任意）
12月	広島精神神経学会参加・演題発表
1月	県内多施設症例検討会参加・症例提示
2月	
3月	県内多施設症例検討会参加・症例提示 中国地区GHP（総合病院精神医学）研究会参加 研修プログラム評価報告書の作成

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
9:00	リエゾン新患（予審・陪審）	外来診察（陪審、新患予審）	入院患者カンファレンス	自主研修（他病院での診療援助を含む）	入院患者診察
10:00					指導医とのケース検討論文検索
11:00					
12:00					
13:00	入院患者診察リエゾン再診	入院患者診察外来再診	病棟回診		入院患者診察リエゾン再診
14:00			入院患者診察外来陪審		
15:00					
16:00	リエゾンカンファレンス	病棟カンファレンス	クルズス症例検討会		
17:00					
18:00					

#1. 可能な限り、研究に関するミーティングへの参加が望ましい
#2. 木曜日～金曜日は自主研修日によって流動的となる

いずれの施設においても、就業時間が週40時間を超える場合は、専攻医との合意の上で実施される。

連携①：県立広島病院精神科

年間スケジュール

月	カリキュラム
4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会出席
7月	広島精神神経学会参加
8月	
9月	広島ECT研究会出席 中国地区総合病院精神医学会出席
10月	中国6大学精神科研修会出席
11月	日本総合病院精神医学会出席
12月	広島精神神経学会発表
1月	
2月	県内多施設症例検討会参加・症例提示
3月	中国地区総合病院精神医学会出席 研修プログラム評価報告書の作成

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
8:00	入院紹介	入院紹介	入院紹介	入院紹介	入院紹介
9:00	外来診察	病棟回診リエゾン		地域診療援助	外来診察
10:00					
11:00					
12:00					
13:00	病棟診察リエゾン	救急外来対応	多職種病棟カンファレンス	リエゾン脳波画像勉強会	病棟診察リエゾン
14:00					
15:00					
16:00					
17:00					
18:00	病棟カンファレンス		リエゾンカンファレンス	医局セミナー（抄読会、症例検討会）	
19:00					

いずれの施設においても、就業時間が週40時間を超える場合は、専攻医との合意の上で実施される。

連携②：広島市立広島市民病院精神科

年間スケジュール

月	カリキュラム
4月	オリエンテーション 専門医2年次（あるいは3年次）研修開始
5月	広島精神科病診連携懇話会（参加）
6月	日本精神神経学会学術総会（可能な限り参加） Clinical Dementia Meeting（参加）
7月	広島精神科病診連携懇話会（参加） 広島精神神経学会参加 中国6大学研修会（参加）
8月	Hiroshima ECT Meeting（参加）
9月	広島精神科病診連携懇話会（参加）
10月	中国地区GHP研究会（参加） 日本臨床精神神経薬理学会総会（可能な限り参加） Clinical Dementia Meeting（参加）
11月	広島精神科病診連携懇話会（参加） 中国・四国精神神経学会（参加、演題発表） 日本総合病院精神医学会総会（可能な限り参加）
12月	広島精神神経学会（参加、演題発表）
1月	広島精神科病診連携懇話会（参加、演題発表）
2月	県内多施設症例検討会参加・症例提示
3月	広島精神科病診連携懇話会（参加） 中国地区GHP研究会（参加） 専門医研修総括的評価

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
8:00	入院診療 急患対応	外来診療 （初診含む）	入院診療 ECT担当	外来診療 （初診含む）	入院診療 ECT担当
9:00					
10:00					
11:00					
12:00					
13:00	入院診療 CLS	入院診療 CLS	入院診療 CLS	入院診療 CLS	入院診療 CLS
14:00				部長回診	
15:00				入院診療	
16:00	ﾃﾞｲﾘｰｶﾝﾌｧﾚﾝｽ	ﾃﾞｲﾘｰｶﾝﾌｧﾚﾝｽ	ﾃﾞｲﾘｰｶﾝﾌｧﾚﾝｽ	ﾃﾞｲﾘｰｶﾝﾌｧﾚﾝｽ	ﾃﾞｲﾘｰｶﾝﾌｧﾚﾝｽ
17:00		入院患者ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ 論文抄読会	緩和ケアｶﾝﾌｧﾚﾝｽ		外来患者ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ
18:00					

＃1．月に1回看護スタッフとのカンファレンスあり
＃2．月に1回脳神経内科との合同カンファレンスあり

いずれの施設においても、就業時間が週40時間を超える場合は、専攻医との合意の上で実施される。

連携③：呉医療センター・中国がんセンター精神科

年間スケジュール

月	カリキュラム
4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会出席
7月	広島精神神経学会参加
8月	
9月	広島ECT研究会出席 中国地区総合病院精神医学会出席
10月	脳波セミナー参加 中国6大学精神科研修会出席
11月	日本総合病院精神医学会出席
12月	広島精神神経学会発表
1月	院内研究発表会発表
2月	県内多施設症例検討会参加・症例提示
3月	中国地区総合病院精神医学会出席 研修プログラム評価報告書の作成

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
8:00	病棟カンファレンス				
9:00	外来診察	リエゾン		地域診療援助	外来診察
10:00					
11:00					
12:00					
13:00	病棟診察	救急外来対応	多職種病棟カンファレンス 病棟回診	地域診療援助	病棟診察
14:00					
15:00					
16:00					
17:00					
18:00			医局カンファレンス		医局セミナー （抄読会、症例検討会）
19:00					

いずれの施設においても、就業時間が週40時間を超える場合は、専攻医との合意の上で実施される。

連携④：広島市立北部医療センター安佐市民病院精神科

年間スケジュール

月	カリキュラム
4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会出席
7月	広島精神神経学会参加
8月	
9月	中国地区総合病院精神医学会出席
10月	中国6大学精神科研修会出席
11月	日本総合病院精神医学会出席
12月	広島精神神経学会発表
1月	
2月	県内多施設症例検討会参加･症例提示
3月	研修プログラム評価報告書の作成

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
8:00	病棟カンファ 病棟回診	病棟カンファ 病棟回診	病棟カンファ 病棟回診	病棟カンファ 病棟回診	病棟カンファ 病棟回診
9:00	外来診察 (陪診･初診患者予診)	入院患者診察 リエゾン再診	外来診察 (陪診･初診患者予診)	入院患者診察 リエゾン再診	外来診察 (陪診･初診患者予診)
10:00					
11:00					
12:00					
13:00	リエゾン新患 (予診･陪診)	認知症･せん妄チーム回診･カンファ	リエゾン新患 (予診･陪診)	リエゾン新患 (予診･陪診)	リエゾン新患 (予診･陪診)
14:00			緩和ケア内科外来診察		入院患者診察 リエゾン再診
15:00	入院患者診察 リエゾン再診	リエゾン新患 (予診･陪診)		緩和ケアチーム回診･カンファ	外来･リエゾンカンファ
16:00		部長回診	認知症･せん妄チーム回診･カンファ		
17:00	多職種合同カンファ				症例検討 文献抄読
18:00					

#1. 上記以外に救急患者の診療はオンコールで対応する(平日の日勤帯)

いずれの施設においても、就業時間が週40時間を超える場合は、専攻医との合意の上で実施される。

連携⑤：特定医療法人　大慈会　三原病院

年間スケジュール

月	カリキュラム
4月	オリエンテーション
5月	院内症例検討会（毎月開催） 院内英語文献抄読会（毎月開催） 院内勉強会（毎月開催）
6月	日本精神神経学会学術総会参加 日本老年精神医学会参加
7月	夏季広島精神神経学会参加 国際神経精神薬理学会演題発表
8月	県内多施設症例検討会参加・症例提示
9月	日本生物学的精神医学会参加 研修プログラム評価報告書の作成

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
9:00	ミーティング	ミーティング	ミーティング	ミーティング	ミーティング
10:00	指導医講義	精神科作業療法	外来陪診 (新患の予診等)	外来陪診 (新患の予診等)	外来陪診 (新患の予診等)
11:00					
12:00					
13:00	急性期検討会	就労支援プログラム	精神科デイケア 認知症デイケア	症例検討会	アルコールミーティング
14:00	回想法			認知症初期集中支援会議	
15:00	入院患者診察	入院患者診察	入院患者診察	入院患者診察	入院患者診察
16:00					
17:00	医局会 (抄読会)				
18:00					

いずれの施設においても、就業時間が週40時間を超える場合は、専攻医との合意の上で実施される。

連携⑥：医療法人　せのがわ　瀬野川病院

年間スケジュール

月	カリキュラム
4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加 日本司法精神医学会大会参加（任意）
7月	広島精神神経学会参加
8月	県内多施設症例検討会参加・症例提示
9月	薬物医療臨床医師研修参加（任意） 研修プログラム評価報告書の作成

週間スケジュール



いずれの施設においても、就業時間が週40時間を超える場合は、専攻医との合意の上で実施される。

連携⑦：医療法人社団更生会　こころホスピタル草津

年間スケジュール

月	カリキュラム
4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加 日本老年精神医学会参加（任意）
7月	日本うつ病学会参加（任意）
8月	県内多施設症例検討会参加・症例提示
9月	研修プログラム評価報告書の作成

週間スケジュール



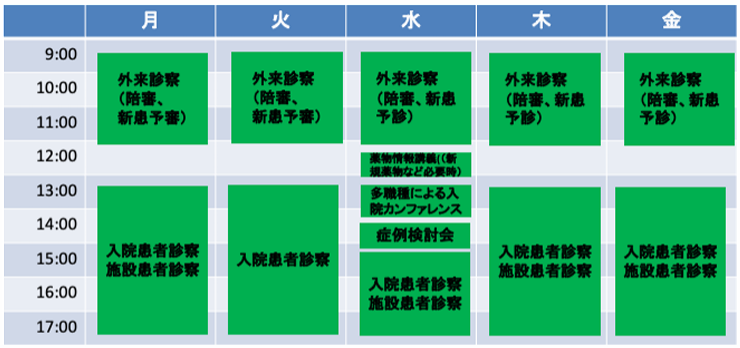
いずれの施設においても、就業時間が週40時間を超える場合は、専攻医との合意の上で実施される。

連携⑧：医療法人社団　和恒会　ふたば病院

年間スケジュール

月	カリキュラム
10月	（選択研修病院①） オリエンテーション
11月	関心領域の学会へ出席
12月	広島精神神経学会発表 研修プログラム評価報告書の作成
1月	（選択研修病院②） オリエンテーション
2月	県内多施設症例検討会参加・症例提示
3月	研修プログラム評価報告書の作成

週間スケジュール



#1. 認知症関連の院外研修会なども随時参加になる。
#2. 入院患者診察の時間内にもケースカンファや指導医のスーパーバイズを随時行う
#3. 認知症初期集中支援会議（月2回）への参加は必須
#4. 院内のスタッフや地域の市民にむけての教育的講義も行う。

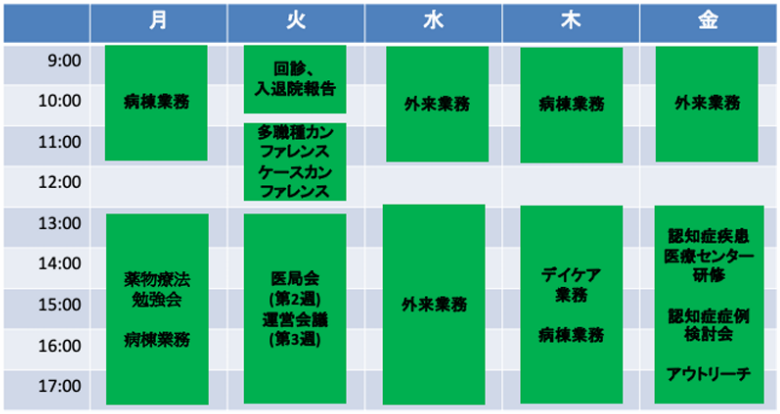
いずれの施設においても、就業時間が週40時間を超える場合は、専攻医との合意の上で実施される。

連携⑨：医療法人　緑誠会　光の丘病院

年間スケジュール

月	カリキュラム
10月	（選択研修病院①） オリエンテーション
11月	関心領域の学会へ出席
12月	広島精神神経学会発表 研修プログラム評価報告書の作成
1月	（選択研修病院②） オリエンテーション
2月	県内多施設症例検討会参加・症例提示
3月	研修プログラム評価報告書の作成

週間スケジュール



いずれの施設においても、就業時間が週40時間を超える場合は、専攻医との合意の上で実施される。

連携⑩：医療法人翠星会　松田病院

年間スケジュール

月	カリキュラム
10月	（選択研修病院①） オリエンテーション
11月	関心領域の学会へ出席
12月	広島精神神経学会発表 研修プログラム評価報告書の作成
1月	（選択研修病院②） オリエンテーション
2月	県内多施設症例検討会参加・症例提示
3月	研修プログラム評価報告書の作成

週間スケジュール



#1.　可能な限り、各病棟カンファレンスへ参加

いずれの施設においても、就業時間が週40時間を超える場合は、専攻医との合意の上で実施される。

連携⑪：医療法人社団　和風会　広島第一病院

年間スケジュール

月	カリキュラム
10月	（選択研修病院①） オリエンテーション
11月	関心領域の学会へ出席
12月	広島精神神経学会発表 研修プログラム評価報告書の作成
1月	（選択研修病院②） オリエンテーション
2月	県内多施設症例検討会参加・症例提示
3月	研修プログラム評価報告書の作成

週間スケジュール



#1. 可能な限り、病棟カンファレンスへの参加が望ましい
#2. 曜日に関係なく初診患者の予診を執る

いずれの施設においても、就業時間が週40時間を超える場合は、専攻医との合意の上で実施される。

連携⑫：医療法人社団　知仁会　メープルヒル病院

年間スケジュール

月	カリキュラム
10月	（選択研修病院①） オリエンテーション
11月	関心領域の学会へ出席
12月	広島精神神経学会発表 研修プログラム評価報告書の作成
1月	（選択研修病院②） オリエンテーション
2月	県内多施設症例検討会参加・症例提示
3月	研修プログラム評価報告書の作成

週間スケジュール



#1. 入院患者診察の際に指導医による指導を適宜行う
#2. 曜日に関係なく初診患者の予診を執る

いずれの施設においても、就業時間が週40時間を超える場合は、専攻医との合意の上で実施される。

連携⑬：医療法人社団せがわ会　千代田病院

年間スケジュール

月	カリキュラム
10月	（選択研修病院①） オリエンテーション
11月	関心領域の学会へ出席
12月	広島精神神経学会発表 研修プログラム評価報告書の作成
1月	（選択研修病院②） オリエンテーション
2月	県内多施設症例検討会参加・症例提示
3月	研修プログラム評価報告書の作成

週間スケジュール



#1. 当院では老年期精神医療の中に身体合併症管理も含まれます

いずれの施設においても、就業時間が週40時間を超える場合は、専攻医との合意の上で実施される。

連携⑭：医療法人恵愛会　安佐病院

年間スケジュール

月	カリキュラム
10月	（選択研修病院①） オリエンテーション
11月	関心領域の学会へ出席
12月	広島精神神経学会発表 研修プログラム評価報告書の作成
1月	（選択研修病院②） オリエンテーション
2月	県内多施設症例検討会参加・症例提示
3月	研修プログラム評価報告書の作成

週間スケジュール



#1．可能な限り各病棟カンファレンスに参加

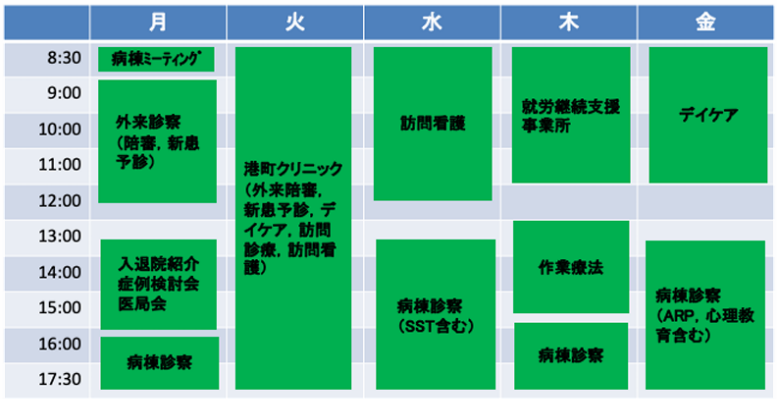
いずれの施設においても、就業時間が週40時間を超える場合は、専攻医との合意の上で実施される。

連携⑮：医療法人仁康会　小泉病院

年間スケジュール

月	カリキュラム
10月	（選択研修病院①） オリエンテーション
11月	関心領域の学会へ出席
12月	広島精神神経学会発表 研修プログラム評価報告書の作成
1月	（選択研修病院②） オリエンテーション
2月	県内多施設症例検討会参加・症例提示
3月	研修プログラム評価報告書の作成

週間スケジュール



#1．第1，3水曜日：瀬戸田サンセットクリニック，
第2金曜日：因島オレンジクリニック

いずれの施設においても、就業時間が週40時間を超える場合は、専攻医との合意の上で実施される。

連携⑯：医療法人緑風会　ほうゆう病院

年間スケジュール

月	カリキュラム
10月	（選択研修病院①） オリエンテーション
11月	関心領域の学会へ出席
12月	広島精神神経学会発表 研修プログラム評価報告書の作成
1月	（選択研修病院②） オリエンテーション
2月	県内多施設症例検討会参加・症例提示
3月	研修プログラム評価報告書の作成

週間スケジュール



＃１．作業療法、ＳＳＴ、病棟カンファレンスなどに適宜参加する
＃２．指導医とともに症例検討会は随時行なう

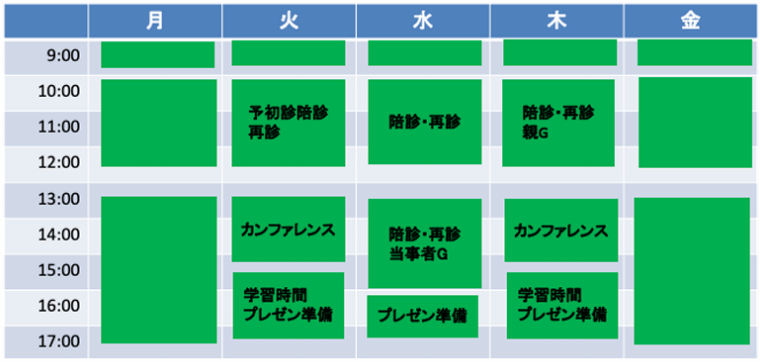
いずれの施設においても、就業時間が週40時間を超える場合は、専攻医との合意の上で実施される。

連携⑰：広島市立舟入市民病院

年間スケジュール

月	カリキュラム
10月	（選択研修病院①） オリエンテーション
11月	関心領域の学会へ出席
12月	広島精神神経学会発表 研修プログラム評価報告書の作成
1月	（選択研修病院②） オリエンテーション
2月	県内多施設症例検討会参加・症例提示
3月	研修プログラム評価報告書の作成

週間スケジュール



#1. 児童・思春期精神医療の考え方・診断・治療について学ぶ
#2. 各種グループ・カンファレンス・連携会議の現場を見学する
#2. 臨床実践に関わり、診断・治療・家族支援・関係機関との連携について学ぶ

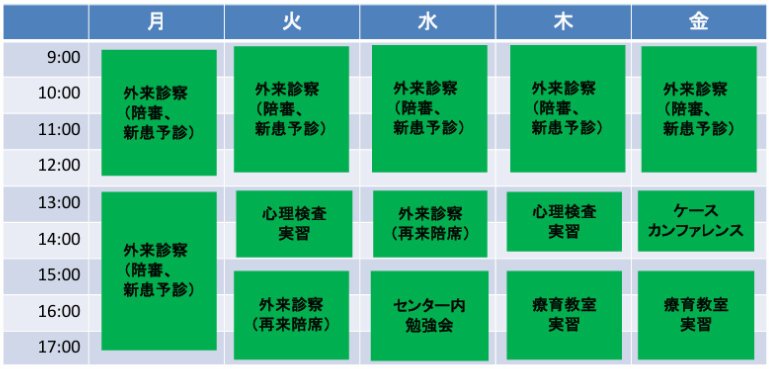
いずれの施設においても、就業時間が週40時間を超える場合は、専攻医との合意の上で実施される。

連携⑱：広島市こども療育センター

年間スケジュール

月	カリキュラム
10月	（選択研修病院①） オリエンテーション
11月	関心領域の学会へ出席
12月	広島精神神経学会発表 研修プログラム評価報告書の作成
1月	（選択研修病院②） オリエンテーション
2月	県内多施設症例検討会参加・症例提示
3月	研修プログラム評価報告書の作成

週間スケジュール



#1. 地域関係者会議や地域支援活動があれば参加してもらう。

いずれの施設においても、就業時間が週40時間を超える場合は、専攻医との合意の上で実施される。

連携⑲：医療法人社団仁和会　児玉病院

年間スケジュール

月	カリキュラム
10月	（選択研修病院①） オリエンテーション
11月	関心領域の学会へ出席
12月	広島精神神経学会発表 研修プログラム評価報告書の作成
1月	（選択研修病院②） オリエンテーション
2月	県内多施設症例検討会参加・症例提示
3月	研修プログラム評価報告書の作成

週間スケジュール



#1. 適宜、各種のカンファレンスには参加
#2. デイケアや作業療法を見学参加
#3　訪問看護への同行

いずれの施設においても、就業時間が週40時間を超える場合は、専攻医との合意の上で実施される。

連携⑳：医療法人正雄会　呉みどりヶ丘病院

年間スケジュール

月	カリキュラム
10月	（選択研修病院①） オリエンテーション
11月	関心領域の学会へ出席
12月	広島精神神経学会発表 研修プログラム評価報告書の作成
1月	（選択研修病院②） オリエンテーション
2月	県内多施設症例検討会参加・症例提示
3月	研修プログラム評価報告書の作成

週間スケジュール



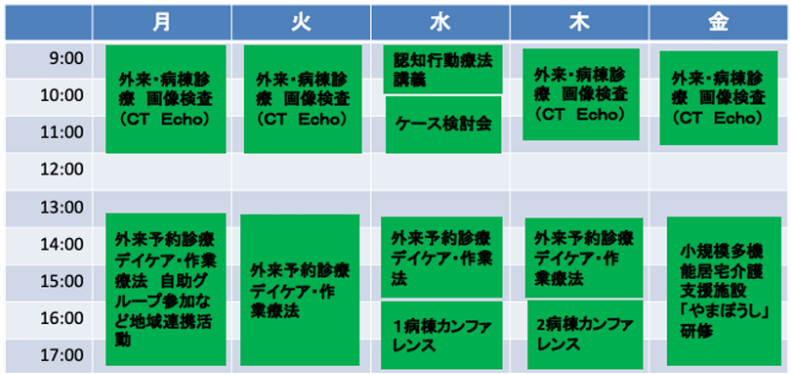
いずれの施設においても、就業時間が週40時間を超える場合は、専攻医との合意の上で実施される。

連携㉑：医療法人社団吉田会　吉田病院

年間スケジュール

月	カリキュラム
10月	（選択研修病院①） オリエンテーション
11月	関心領域の学会へ出席
12月	広島精神神経学会発表 研修プログラム評価報告書の作成
1月	（選択研修病院②） オリエンテーション
2月	県内多施設症例検討会参加・症例提示
3月	研修プログラム評価報告書の作成

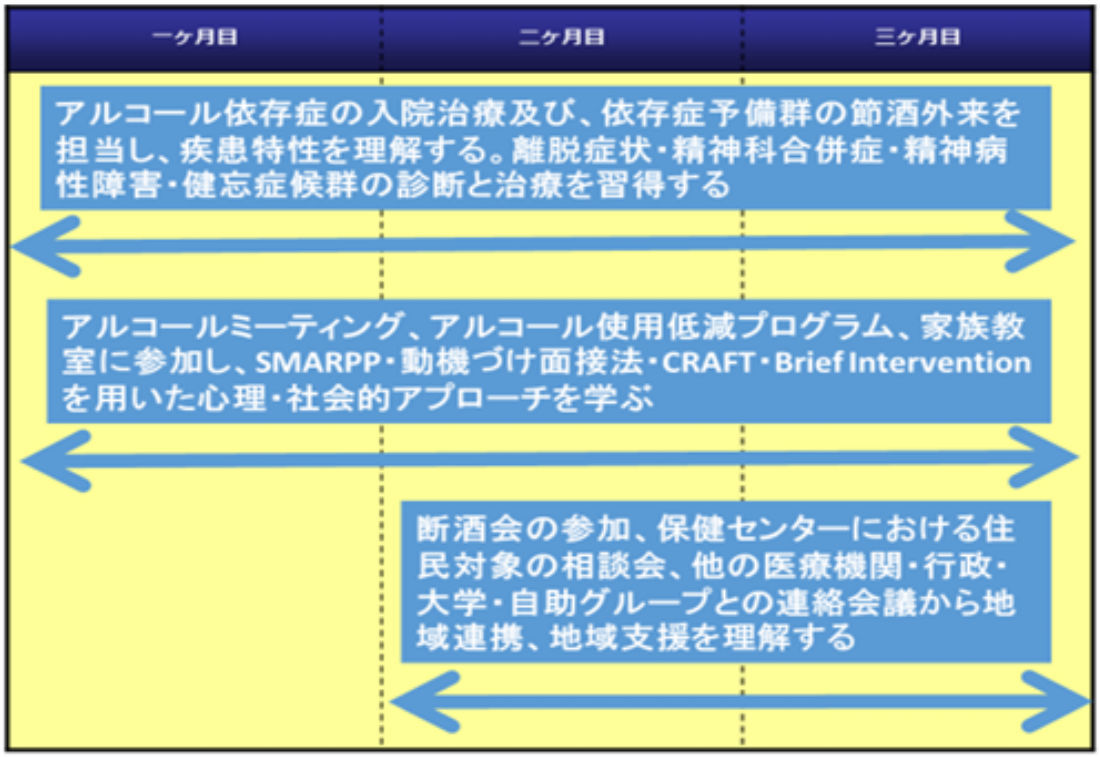
週間スケジュール



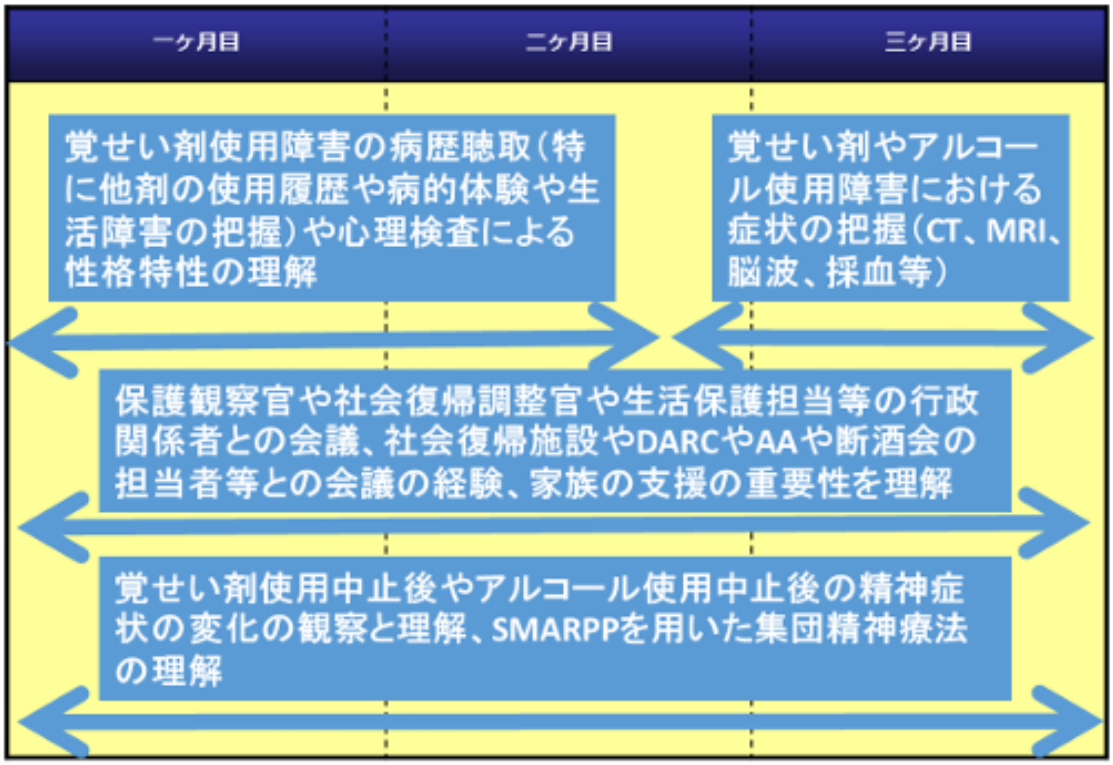
＃1．認知行動療法は最低1症例担当し、事例の概念化、治療計画策定を行い、ケース検討会で発表。
＃2.研修のスケジュール・内容は状況に応じて変わる可能性がある。

いずれの施設においても、就業時間が週40時間を超える場合は、専攻医との合意の上で実施される。

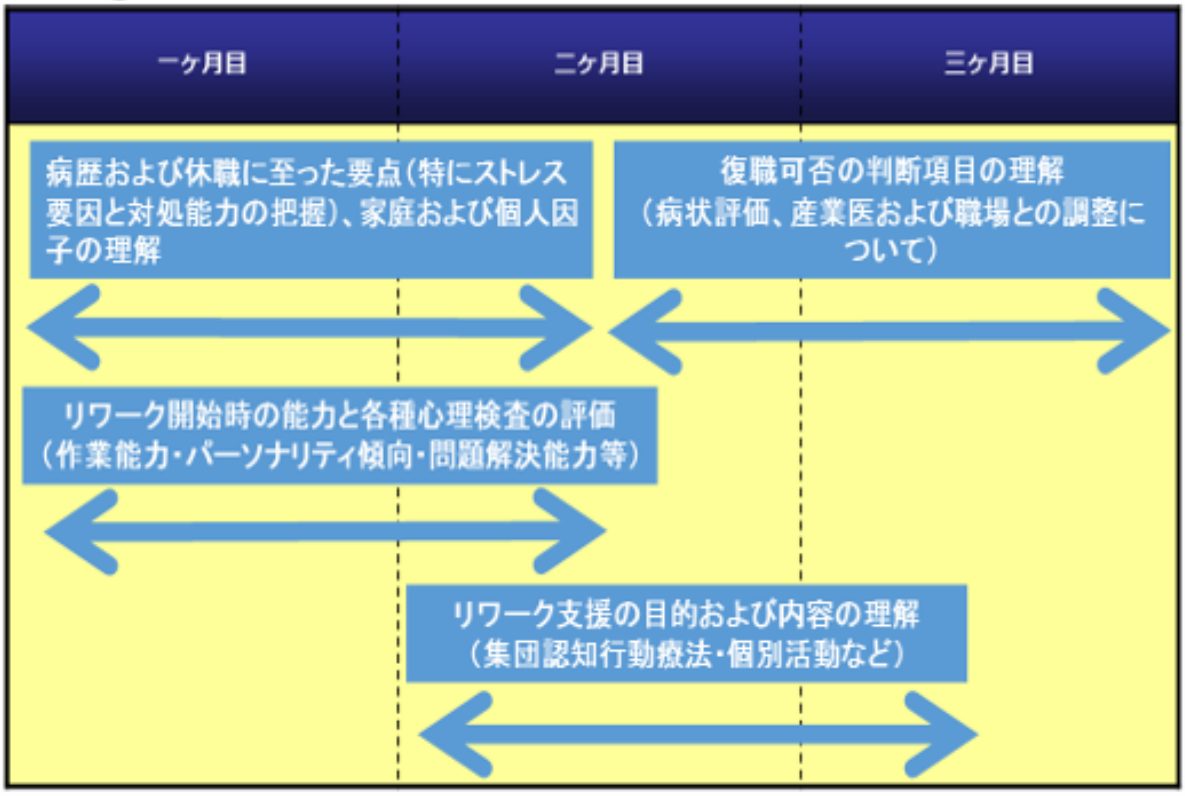
選択研修カリキュラム
連携⑤：三原病院（アルコール症）



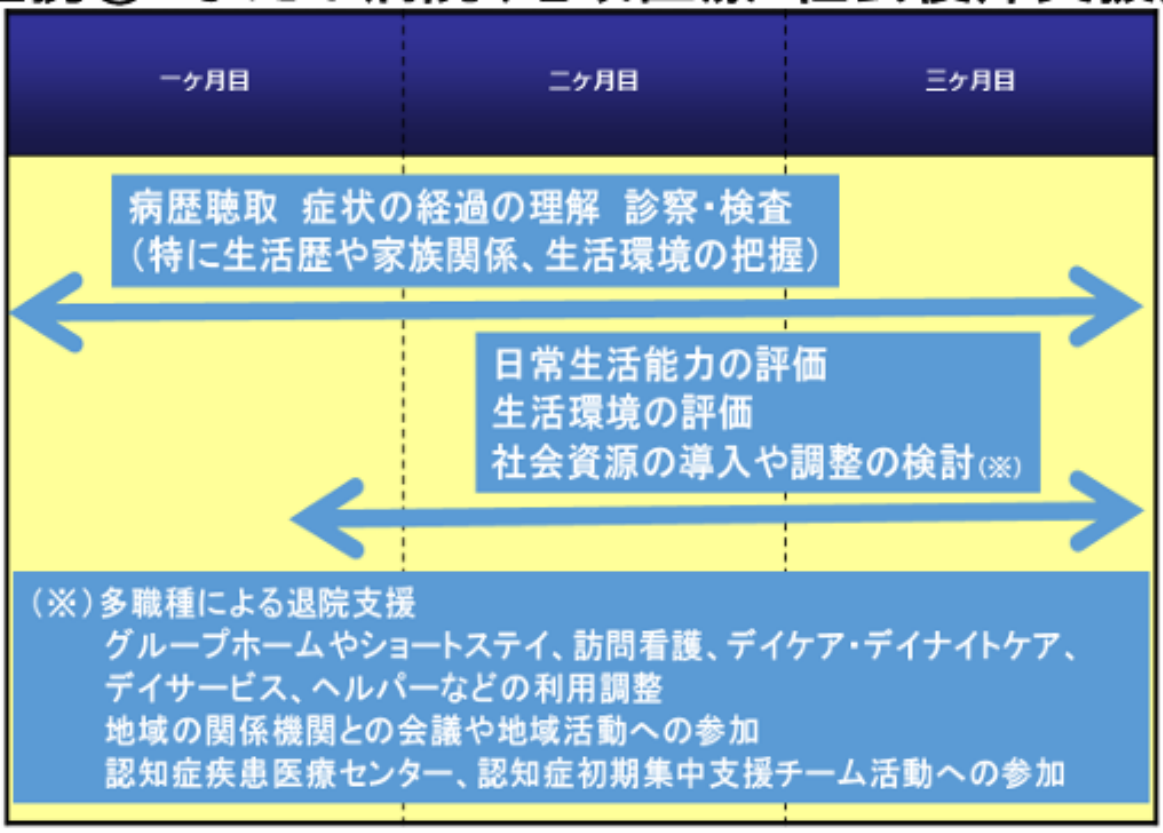
連携⑥：瀬野川病院（薬物依存）



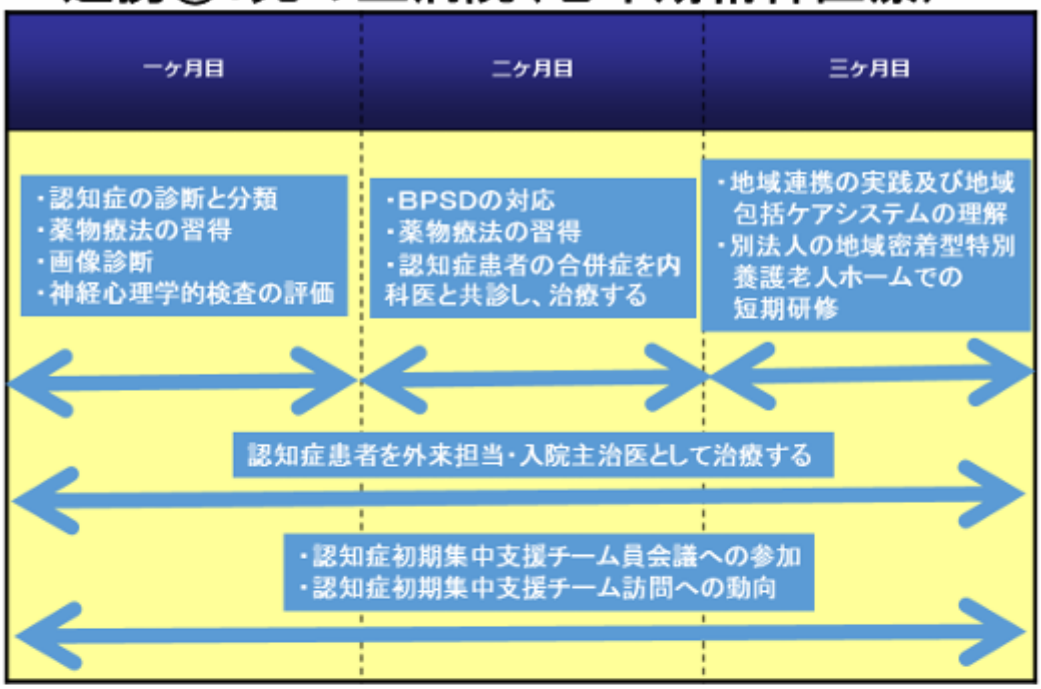
連携⑦：こころホスピタル草津（気分障害リワーク）



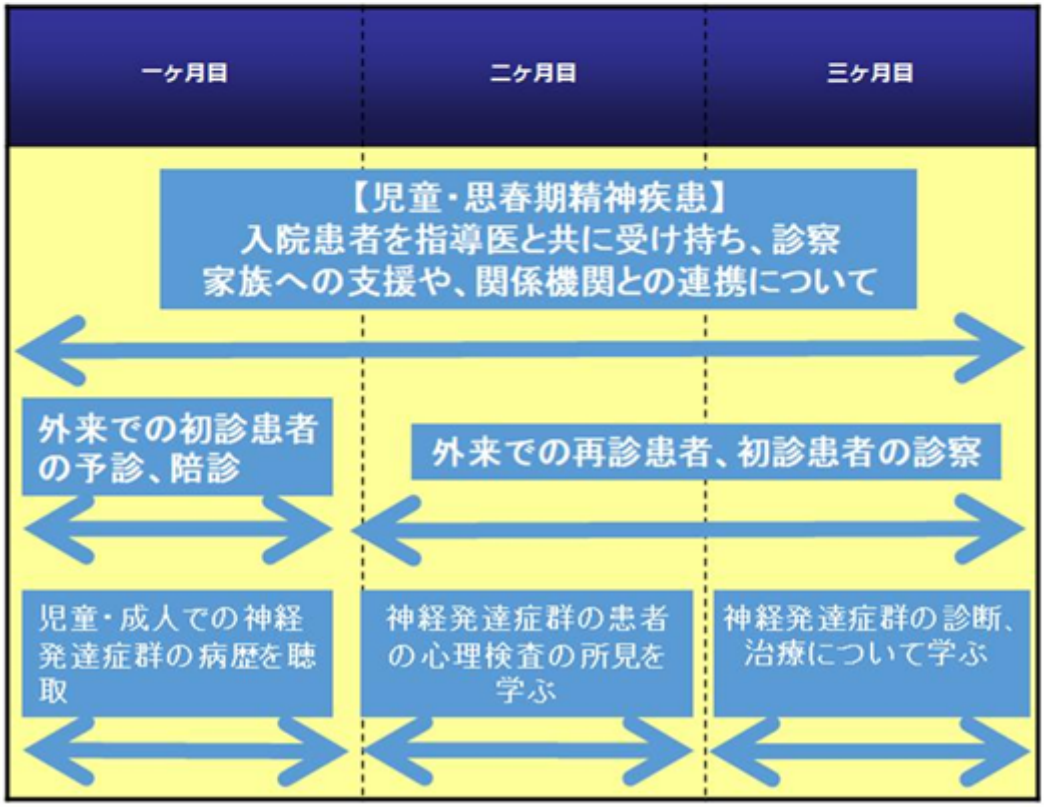
連携⑧：ふたば病院（地域医療・社会復帰支援）



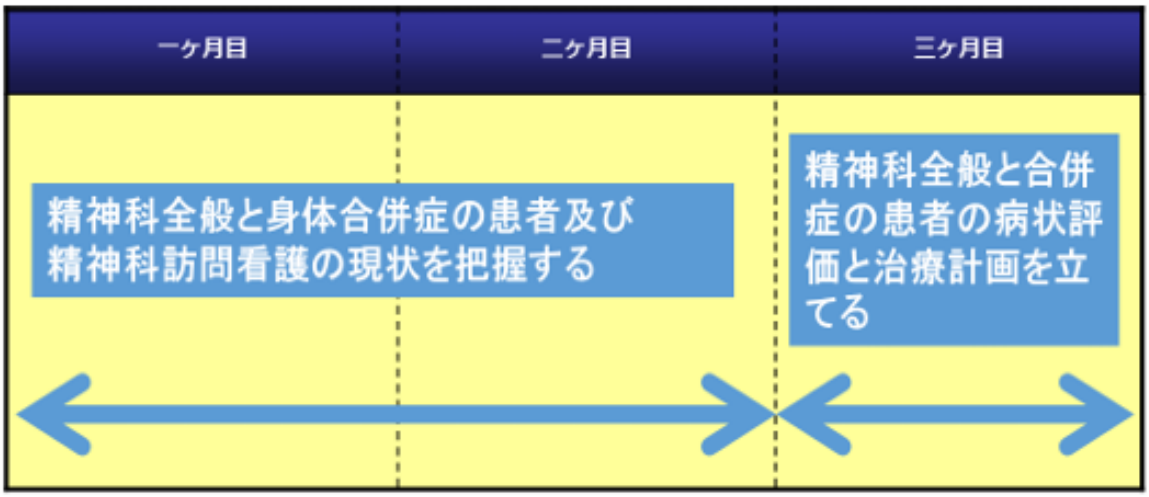
連携⑨：光の丘病院（老年期精神医療）



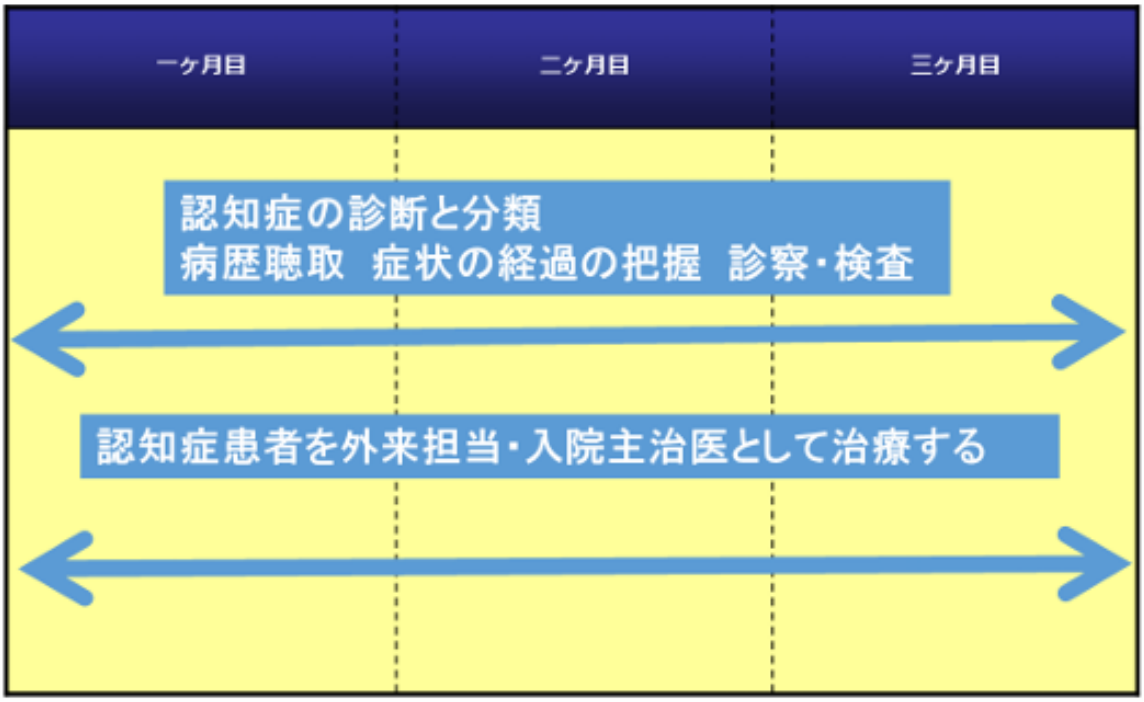
連携⑩：松田病院（児童・思春期精神医療）



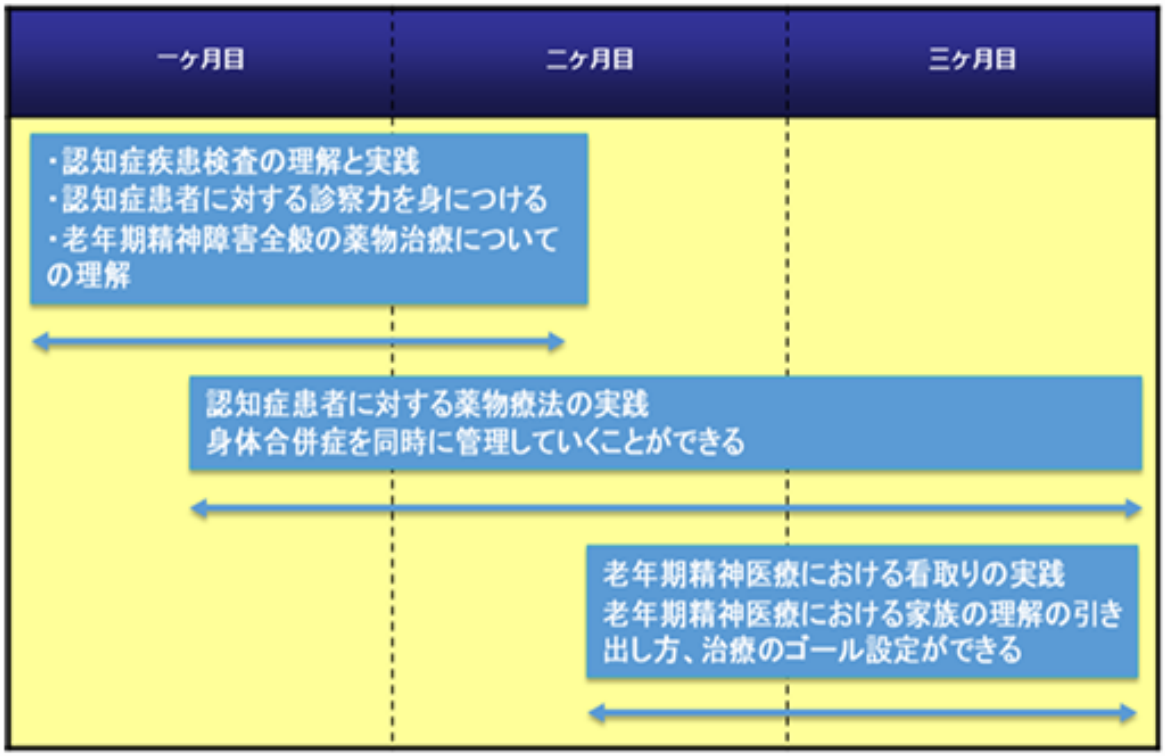
連携⑪：広島第一病院（地域医療・社会復帰支援）



連携⑫：メープルヒル病院（老年期精神医療）



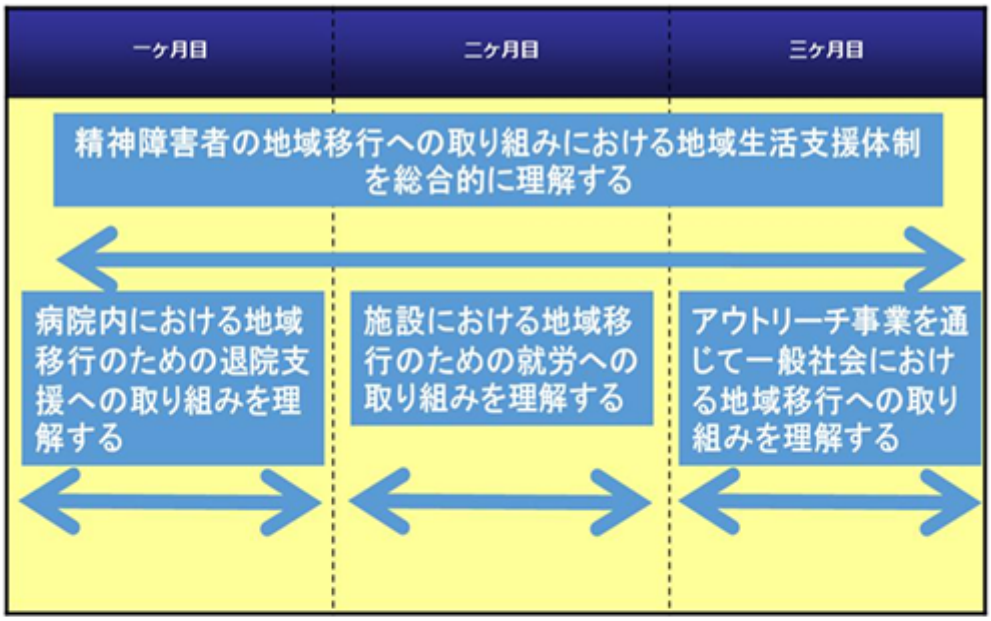
連携⑬：千代田病院（老年期精神医療）



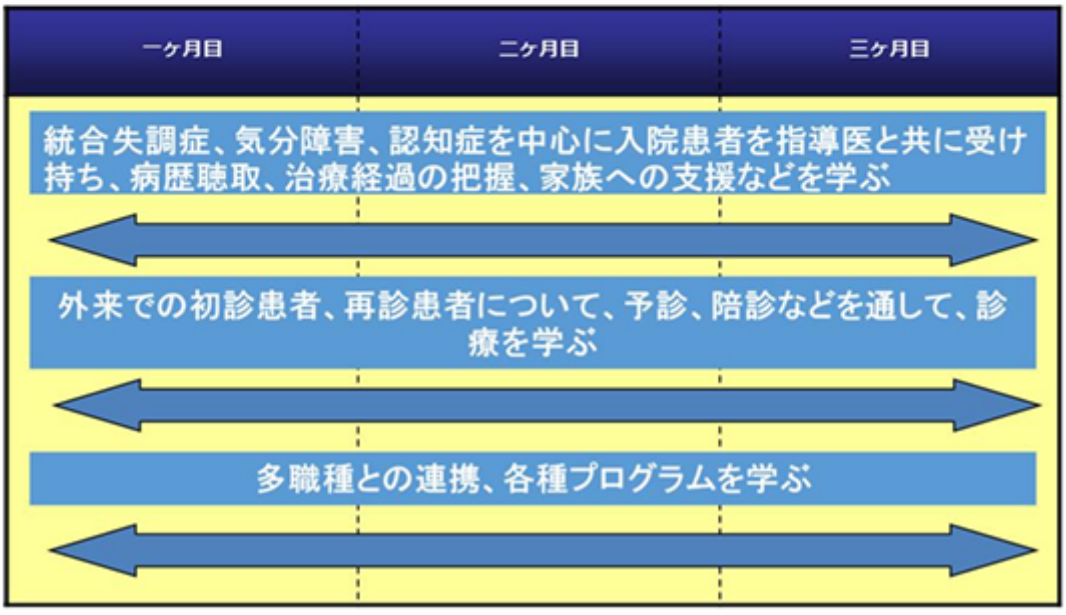
連携⑭：安佐病院（地域医療・社会復帰支援）



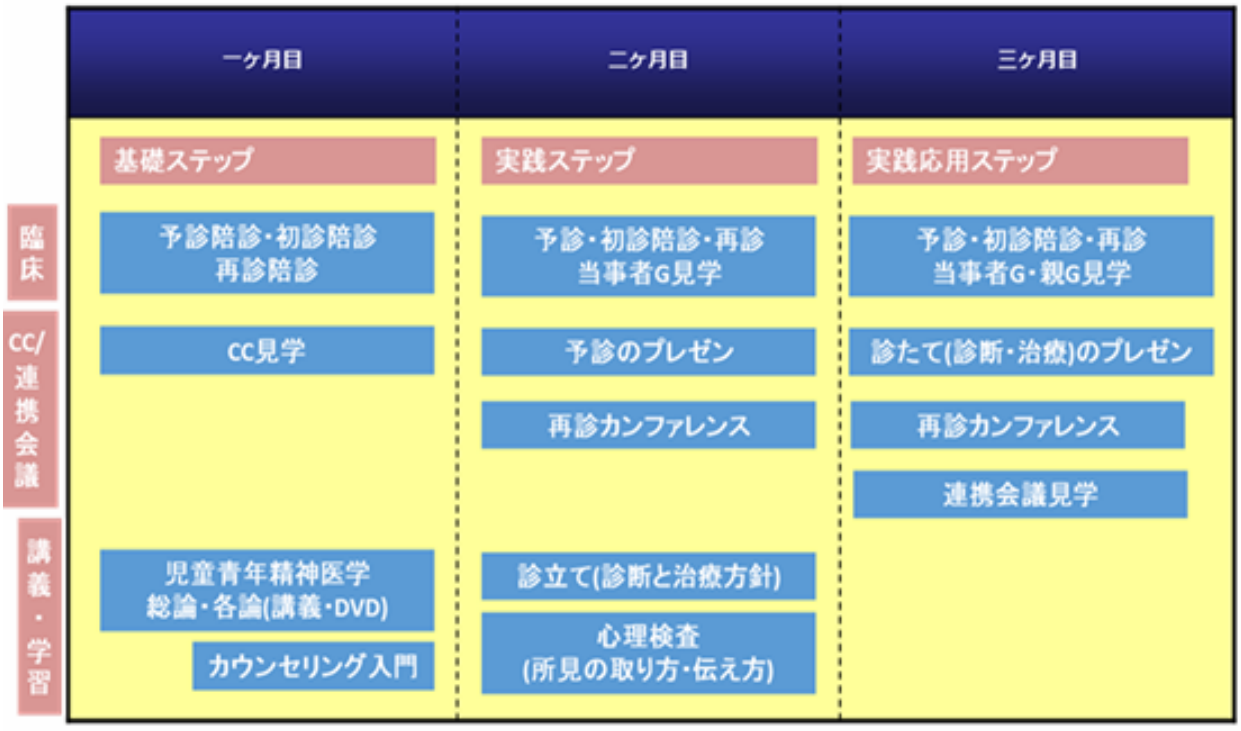
連携⑮：小泉病院（地域医療・社会復帰支援）



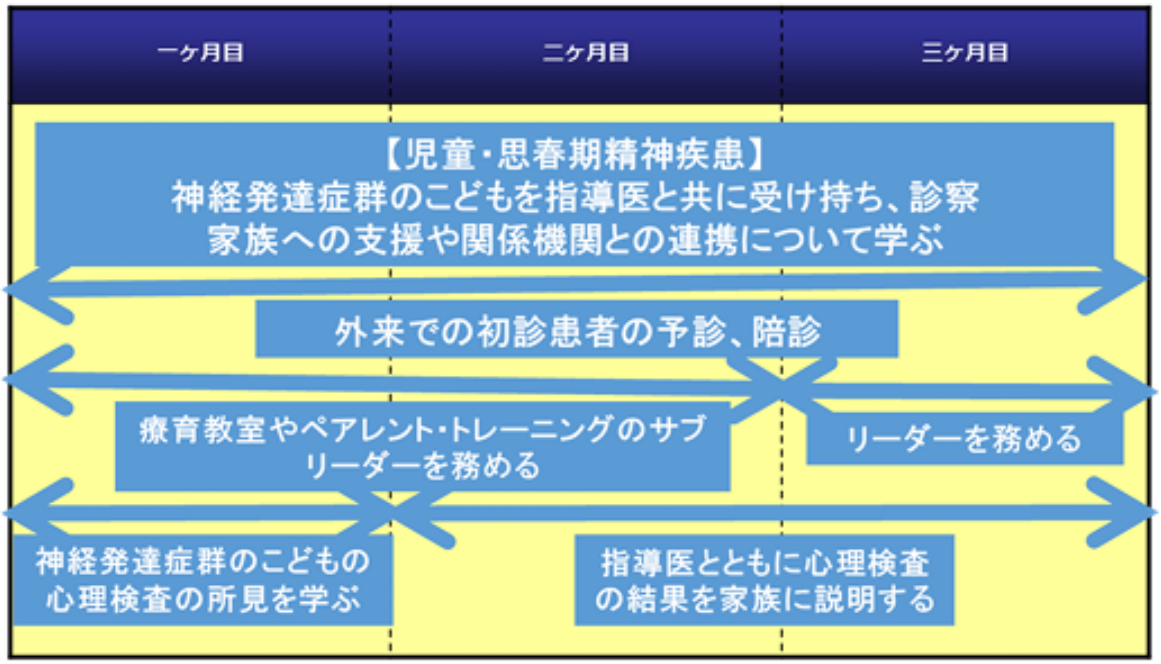
連携⑯：ほうゆう病院（地域医療・社会復帰支援）



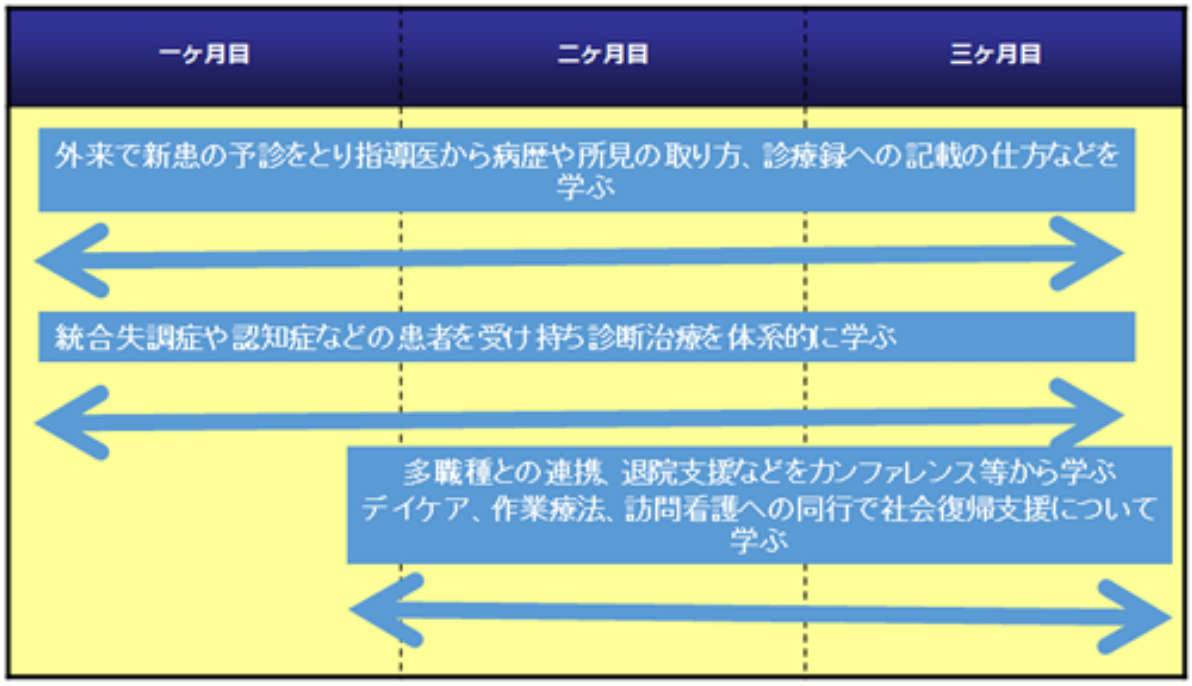
連携⑰：舟入市民病院（児童・思春期精神医療）



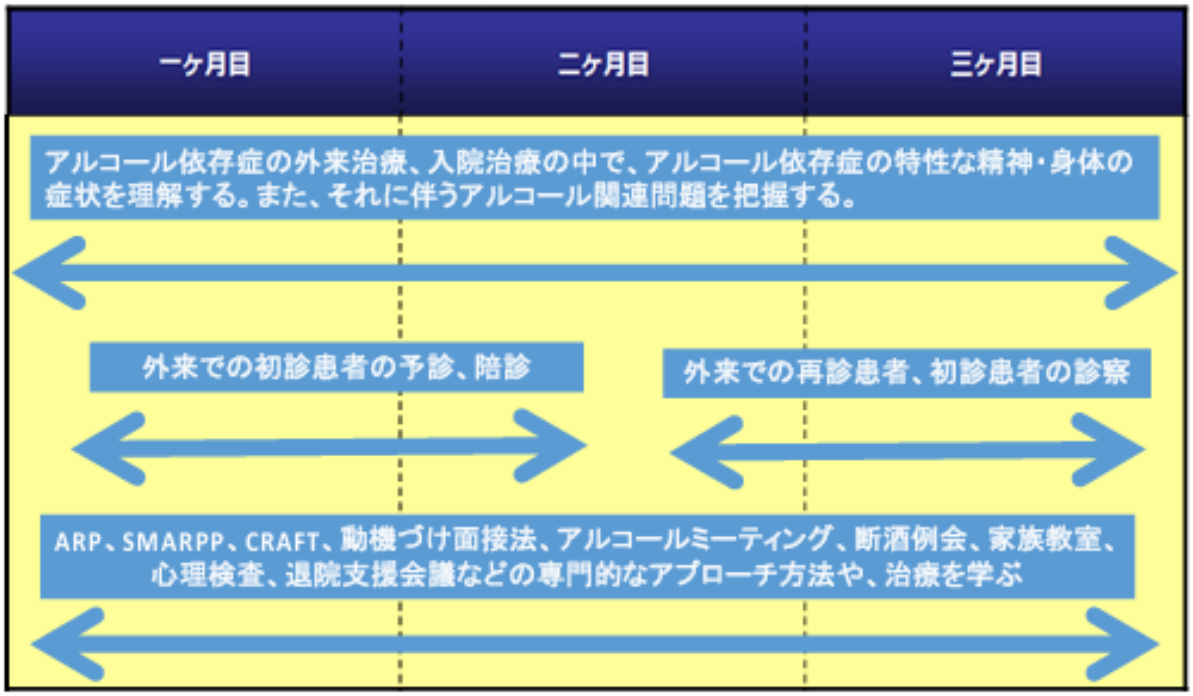
連携⑱：広島市こども療育センター（児童・思春期精神医療）



連携⑲：児玉病院（地域医療・社会復帰支援）



連携⑳：呉みどりヶ丘病院（アルコール症）



連携㉑：吉田病院（地域医療・社会復帰支援）

